

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年12月23日
【事業年度】	第12期（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	株式会社フリークアウト・ホールディングス
【英訳名】	FreakOut Holdings, inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 Global CEO 本田 謙
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木六丁目3番1号
【電話番号】	03-6721-1740（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 永井 秀輔
【最寄りの連絡場所】	東京都港区六本木六丁目3番1号
【電話番号】	03-6721-1740（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 永井 秀輔
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
決算年月	2018年9月	2019年9月	2020年9月	2021年9月	2022年9月
売上高 (千円)	14,745,201	21,709,735	24,878,580	29,499,898	28,965,063
経常利益又は経常損失( ) (千円)	307,586	1,497,396	221,048	1,112,391	2,709,925
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( ) (千円)	25,553	3,512,867	669,902	580,465	1,364,745
包括利益 (千円)	5,378	3,549,288	513,974	1,097,142	2,348,664
純資産額 (千円)	4,495,192	5,885,791	6,356,708	7,856,549	10,042,915
総資産額 (千円)	15,636,583	24,239,050	24,316,347	20,534,755	24,734,660
1株当たり純資産額 (円)	319.12	280.12	278.22	380.40	476.49
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( ) (円)	1.94	233.50	42.04	34.51	76.34
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	1.80	-	-	31.95	72.46
自己資本比率 (%)	26.9	18.2	18.9	33.1	34.4
自己資本利益率 (%)	0.6	81.5	15.2	10.4	17.8
株価収益率 (倍)	965.46	6.35	25.07	58.71	16.99
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,921,753	1,759,382	844,730	1,902,507	877,166
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,157,781	5,352,307	684,610	1,344,732	572,861
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	5,062,230	6,130,172	4,088,180	4,632,700	325,833
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	3,174,978	5,690,122	9,916,616	5,996,667	7,287,745
従業員数 (名)	632	741	571	459	478
〔ほか、平均臨時雇用人員〕	〔15〕	〔30〕	〔3〕	〔1〕	〔7〕

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、〔外書〕は臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

2. 第9期及び第10期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第9期の期首から適用しており、第8期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、当連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
決算年月	2018年9月	2019年9月	2020年9月	2021年9月	2022年9月
売上高 (千円)	630,600	2,006,058	653,062	938,668	653,769
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	256,946	966,826	629,778	128,997	574,730
当期純損失 ( ) (千円)	454,185	2,015,596	766,951	229,131	1,326,654
資本金 (千円)	1,433,755	3,333,834	2,651,163	3,548,299	3,552,049
発行済株式総数 (株)	13,320,900	15,904,700	16,660,700	18,015,424	18,022,924
純資産額 (千円)	2,492,747	4,275,644	4,143,223	5,709,853	4,596,599
総資産額 (千円)	10,401,555	11,730,021	15,201,702	11,014,005	10,910,608
1株当たり純資産額 (円)	188.97	271.11	250.67	319.18	248.62
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純損失 ( ) (円)	34.42	133.98	48.13	13.62	74.21
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	23.9	36.4	27.2	51.8	40.7
自己資本利益率 (%)	17.4	59.6	18.2	4.7	26.1
株価収益率 (倍)	54.41	11.06	21.90	148.74	17.48
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕 (名)	52 〔4〕	30 〔1〕	43 〔1〕	45 〔1〕	45 〔0〕
株主総利回り (%) (比較指標：東証マザーズ株 価指数)	47.2 (98.6)	37.4 (80.1)	26.6 (112.2)	51.1 (103.2)	32.7 (63.6)
最高株価 (円)	4,350	2,548	1,835	2,426	2,189
最低株価 (円)	1,369	1,174	706	811	1,130

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、〔外書〕は臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 最高・最低株価は、2022年4月3日以前については東京証券取引所マザーズにおけるものであり、2022年4月4日以降については東京証券取引所グロース市場におけるものであります。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第9期の期首から適用しており、第8期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

5. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当事業年度の期首から適用しており、当事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2【沿革】

年月	概要
2010年10月	当社設立。
2011年1月	DSP「FreakOut」をリリース。
2012年4月	アメリカ合衆国ニューヨーク州に子会社 FREAKOUT INTERNATIONAL, INC. (注1) (現連結子会社) を設立。
2012年5月	スマートフォン向けサービスを開始。
2013年3月	プライベート・データマネジメント・プラットフォーム(注2)「MOTHER」のサービスを正式に開始。
2013年6月	株式会社Preferred Infrastructureと合併事業会社 株式会社インティメート・マージャー(注4)を東京都文京区に設立。
2013年10月	シンガポール共和国シンガポール市に子会社 FREAKOUT ASIA PACIFIC PTE.LTD. (現 FREAKOUT PTE.LTD. (現連結子会社)) を設立。
2013年12月	株式会社イグニス(現在は合併契約を解消)と合併事業会社 M.T.Burn株式会社(注3)を東京都渋谷区に設立。
2014年1月	本社を東京都港区六本木に移転。
2014年6月	東京証券取引所マザーズ(現グロース市場)に株式を上場。
2014年10月	大阪府大阪市に関西支社を設立。
2015年7月	プライベート・データマネジメント・プラットフォーム「MOTHER」、スマートフォンでのGPS・Beacon情報に対応。
2015年10月	株式会社インティメート・マージャー(注4)を連結子会社化。
2015年11月	インドネシア共和国ジャカルタ市にPT. FreakOut dewina Indonesia(現連結子会社)を設立。
2016年1月	M.T.Burn株式会社(注3)がLINE株式会社と資本業務提携契約を締結。
2016年5月	モバイルマーケティングプラットフォーム「Red」をリリース。
2016年6月	JapanTaxi株式会社と合併事業会社の株式会社IRIS(現持分法適用関連会社)を東京都千代田区に設立。
2016年7月	中華民国台北市に FreakOut Taiwan Co.,Ltd.(現連結子会社)を設立。
2016年8月	株式会社電子広告社(現 株式会社デジタルフト(現持分法適用関連会社)(注5))を連結子会社化。
2017年1月	当社のグループ会社の経営管理事業を除く一切の事業を、新設の株式会社フリークアウト(現連結子会社)に継承させる新設分割を行い、持株会社体制に移行。商号を株式会社フリークアウト・ホールディングスに変更。
2017年6月	リテールテックプロダクトユニット「ASE」を発足。
2017年8月	東アジア～東南アジア～南アジア主要国への現地展開完了。
2017年9月	adGeek Marketing Consulting Co.,Ltd.(現連結子会社)を連結子会社化。
2017年9月	媒体社への独自広告配信プラットフォーム開発・運用支援を目的とした新プロダクトRed for Publishers(プレミアム媒体社様向けに提供する広告プラットフォーム「Scarlet」にリブランディング)をリリース。
2018年12月	伊藤忠商事株式会社と資本業務提携契約を締結。
2019年1月	Playwire,LLC(現連結子会社)を連結子会社化。
2019年9月	「TVer PMP」と連携し、インストリーム動画広告配信サービスの提供を開始。
2019年10月	株式会社インティメート・マージャー(注4)が東京証券取引所マザーズ(現グロース市場)に上場。
2021年9月	株式会社デジタルフト(注5)が東京証券取引所マザーズ(現グロース市場)に上場。
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所のマザーズからグロース市場に移行。

(注)1. FREAKOUT INTERNATIONAL, INC. につきましては、2015年4月末をもって事業を休止しており、2018年10月に当社取締役会において清算を決議しております。

2. プライベート・データマネジメント・プラットフォーム

広告主が自社のさまざまなマーケティングデータや外部データを集約し、活用するために構築するデータ基盤。DSPにおいては、広告配信先のセグメンテーションなどに活用することができる。

3. M.T.Burn株式会社につきましては、2019年11月に清算しております。

4. 2020年11月18日に一部株式を譲渡し、当社の連結子会社ではなくなっております。

5. 2021年9月28日に一部株式を譲渡し、当社の連結子会社ではなくなっております。

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社31社、非連結子会社2社、関連会社8社、その他の関係会社1社により構成されております。当社グループは、「人に人らしい仕事を。」というミッションのもと、国内外の広告業界において、広告主の広告価値最大化、媒体社の収益最大化を目指し、広告・マーケティング事業、投資事業及びその他事業のそれぞれの事業領域の拡大をしております。

#### (広告・マーケティング事業)

当社グループの広告・マーケティング事業は主にDSP(注1)領域及びSSP(注2)領域への事業展開を行っております。

DSP領域においては、広告主がもつ自社(広告主)サイトのアクセスデータ、広告配信データ、会員データ、購買データなどのビッグデータを当社開発の解析ソフトウェアにより分析するプライベートDMP(注3)「MOTHER」を用いて、インターネット広告におけるリアルタイム広告枠取引を行うDSP「Red」及び「FreakOut」における広告配信効果の最大化を実現しております。一方、SSP領域においては、媒体社に対する収益化の向上を目的として、デジタル広告をより美しく、ユーザーにとって役に立つ情報や興味深いコンテンツに進化させるネイティブ広告プラットフォームサービスを国内外で展開しております。

さらに、DSP領域を中心とする従来のサービスで培ってきたノウハウ・経験を活かし、動画・Connected TV領域を中心とするプレミアム媒体社への独自広告配信プラットフォーム開発・運用支援を目的としたプロダクト「Scarlet」(従来の「Red for Publishers」をリブランディング)を提供しております。これにより、媒体社は広告配信による収益最大化を本プロダクトに委ね、本来リソースを注ぐべきコンテンツの充実や集客に専念することが可能になると共に、広告主へ向けてもプレミアムな媒体社の広告枠を当社DSP「Red」を通じて買い付けることによって、従来からの目的であった広告価値の最大化のさらなる追求が可能となります。また、Playwire,LLCにおいても、北米を中心とする英語圏において、プレミアムな媒体社の収益を、機械学習を通じて最適化・最大化することを可能にするプロダクトを提供しております。

また、当事業年度から動画領域での新たな取り組みとして、次世代型のYouTube広告配信ソリューション「GP」を開始しました。「GP」は、高度なブランドセーフティ機能を搭載した新世代の動画コンテキストUALターゲティングを可能とするプロダクトであり、独自の高い動画解析技術を用いてYouTubeでの動画広告配信を最適化し、広告主のブランドイメージを守り、関連性の高い動画への配信を行うことで広告効果を最大化します。

このように当社グループは、広告主の広告効果の最大化及び媒体社に対する収益化の向上を実現しており、広告・マーケティング事業が当社の成長を牽引しております。

## (1) DSP領域について

## DSPの概要

DSPとは広告主や広告代理店が、広告主の利益を最大化するために効率的にインターネット広告の買い付けをし、配信するプラットフォームです。具体的には、広告主や広告代理店が、RTB（注4）技術を活用し独自のアルゴリズムにより、アドエクスチェンジ（注5）やSSP、あるいはアドネットワークなどに対して、ユーザーの広告1インプレッションごとに最適な自動入札取引・広告配信を行なうプラットフォームです。

広告主はあらかじめDSPを通じて広告を見て欲しい対象者の属性、入札の上限額を決めておき、広告主の要望にあうユーザーが見つかった場合に瞬時に入札が行われます。そして、最も高い価格を提示した広告が媒体に配信される仕組みとなっております。

従来、広告主は、ターゲットであるユーザーが閲覧すると思われるサイトを想定して、特定の広告枠を予め決められた価格で買い付けておりましたが、DSPを用いることにより、広告主は広告を配信したいユーザーをリアルタイムで判断し、入札による適切な価格で広告を配信することができるため、広告主にとって広告の費用対効果を高めることが可能となります。

## ＜これまでのディスプレイ広告＝純広告＞

## 買付け対象：メディアの枠

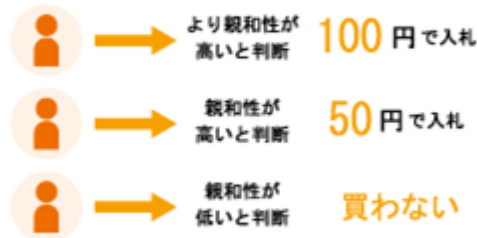
メディアを閲覧していると想定されるユーザー情報をもとに、広告枠を購入  
予め決められたインプレッションを  
決められた価格で購入



## ＜現在のディスプレイ広告＝DSP＞

## 買付け対象：オーディエンス(人)

発生したインプレッションが広告主にとって  
どれくらい有益かをリアルタイムに判断し、  
接触しているオーディエンスによって適切な価格で入札



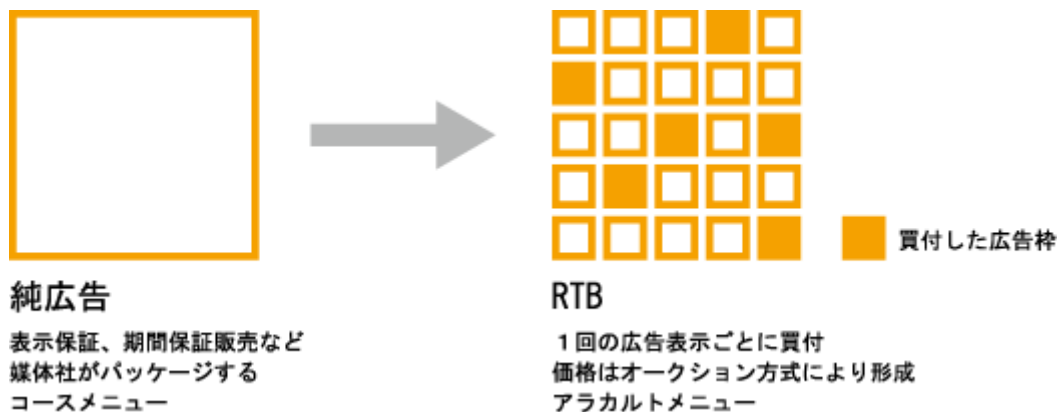
	場所	価格	クリエイティブ
純広告	特定のサイト	予め決定された価格	サイト単位での最適化
DSP	複数のサイトを横断	入札による適切な価格	オーディエンスに対する最適化

## RTBの概要

RTBとは、インプレッション（広告の表示回数）ごとに入札形式で広告枠を自動的に売買する配信手法です。RTBは、ディスプレイ広告（注6）をこれまでのような純広告の枠売りではなく、1インプレッションごとにアクセスしてきたユーザーの属性を解析し、「特定の属性を持ったユーザーへの広告」として1インプレッションごとに入札形式で売買を行なうシステムです。

RTB技術の活用により、広告主は従来の特定サイトの広告枠を予め決定された価格で購入する純広告や、検索キーワードに関連した検索連動型広告（注7）では難しかった、潜在的な消費者層の開拓や興味・関心をもってもらうための効果的な広告配信による認知施策が可能となります。

## [ 純広告取引とRTB取引の違い ]



## [ RTBの流れと販売形態 ]

## &lt; RTBの流れ &gt;

インターネットユーザーが広告枠のあるウェブサイトに来訪した瞬間に、広告枠を管理するアドエクスチェンジやSSP、あるいはアドネットワーク（注8）などから、複数のDSP事業者に来訪ユーザーの情報と広告枠情報（入札リクエスト）が送信され、

各DSP事業者はデータベースを解析し、入札を実行します。

広告枠のオークションの結果、競り勝ったDSP事業者は広告枠の配信を行います。

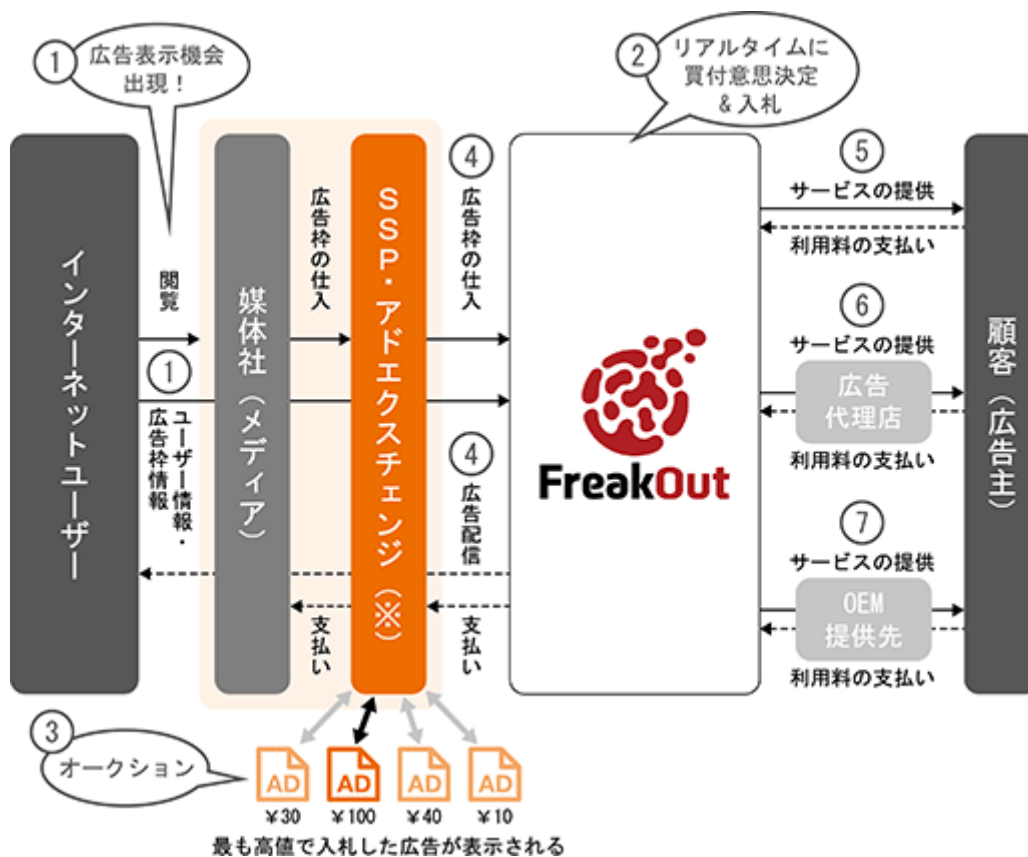
当社では、オークションが成立した瞬間にSSP等から広告枠を仕入れ、広告枠の入札価額に一定のマージンを載せて販売価額を決定し、広告枠の配信を行います。

## &lt; 販売形態 &gt;

直接販売：広告主に対して直接サービスを提供する形態で、当社が配信設定、運用からレポート（配信結果や運用方法の改善提案等の報告書・提案書）作成までを実施しています。

代理店販売：広告代理店を通じて広告主に対してサービスを提供する形態で、当社が配信設定、運用からレポート作成までを実施しています。

OEM代理店販売：広告代理店とOEM代理店契約を締結し、「Red」及び「FreakOut」を広告代理店に対してOEM提供する形態です。OEM先が、自社ブランドとしてDSP事業を運営するため、配信設定、運用からレポート作成などはOEM先が実施しています。

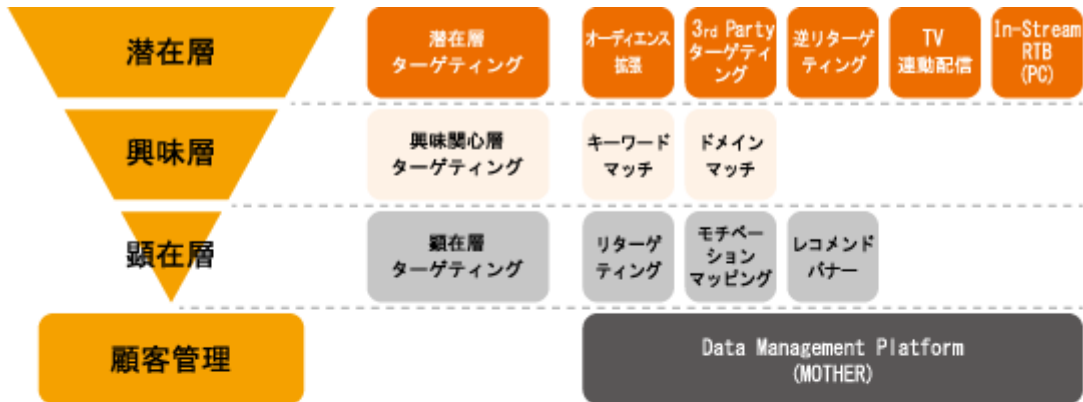


## (2) 当社グループが提供するDSP「Red」及び「FreakOut」について

多様な配信手法によるターゲティング技術

「Red」及び「FreakOut」は広告主にとって有望な見込顧客にターゲティングするために、多様な配信手法を備えています。

具体的には、「知らない人（潜在層）」には知ってもらうための「オーディエンス拡張」等の配信手法を用いた潜在層ターゲティング、「既に知っている人（興味層）」には欲しいと思ってもらうための「キーワードマッチ」等の配信手法を用いた興味関心層ターゲティング、「欲しいと思った人（顕在層）」にはコンバージョン（注9）してもらうための「リターゲティング」等の配信手法を用いた顕在層ターゲティングを行い、消費者の行動プロセスに応じてターゲティングした広告配信を実現しています。



主な配信手法・機能	区分	詳細	主な配信手法・機能	区分	詳細
オーディエンス拡張	行動ターゲティング	購入者・サイト訪問者とWeb閲覧行動が類似しているユーザーに対して広告配信	キーワードマッチ	検索キーワード	特定のキーワード検索したユーザーに対して広告配信
3rdPartyターゲティング	ユーザーインサイトターゲティング	提携しているユーザーデータ提供企業から提供されるデータを用いて、広告配信	ドメインマッチ	ドメインターゲティング	広告主の商品、サービスと関連性の高い特定のサイトのみを指定して広告配信
逆リターゲティング	サイト未訪問者配信	サイト訪問者以外のオーディエンスに配信	リターゲティング	サイト訪問者ターゲティング	コンバージョンせず離脱したサイト訪問者のみに広告配信
TV運動配信	TV運動ターゲティング	TVCMなどの放送地域・時間・対象ユーザーなどを設定、TVCMと連動した形で広告配信	モチベーションマッピング	サイト訪問者ターゲティング	訪問回数・離脱期間に応じてリターゲティングを実施
In-Stream RTB (PC)	ビデオアド	Youtubeなど動画サイトにRTBで動画広告配信	レコメンドバナー	サイト訪問者ターゲティング	サイト訪問者が閲覧した商品などをバナーに生成し、お勧め商品を自動的に広告原稿に表示し配信

#### 広告枠在庫について

DSP事業を行うためには、買付可能な広告枠を確保していることが前提となります。「Red」及び「FreakOut」は国内で事業を行う主要なSSP、アドエクスチェンジと接続し、多くの広告枠在庫にアクセスすることが可能です。また、「Scarlet」により、優良な媒体社の広告枠在庫へ当社は優先的にアクセスすることが可能となります。

#### OEM提供について

当社グループは、広告代理店や媒体社等に対して、「Red」及び「FreakOut」をOEM提供しております。

OEM提供先にとっては、サーバコストや開発難易度の点から独自でDSPを開発し、新規参入することが難しいため、当社グループのDSP基本機能とインフラ提供を利用することで、早期に新規参入が可能になります。

なお、OEM提供先に対して、RTBによるディスプレイ広告運用や設計スキル及び「Red」及び「FreakOut」の機能理解度が一定のレベルに達していることを当社グループが保証する認定パートナー制度を実施しております。



**(投資事業)**

当社グループは、グローバル展開のポテンシャルを有する製品/ソリューションを開発するITベンチャー企業を主たる投資対象として、投資リターンによる企業価値の向上を図るための投資事業を行っております。

**(その他事業)**

国内外のグループにおける経営管理機能・新規事業等の提供を行っております。新規事業では、インターネット広告市場以外の分野において、当社グループの技術資産であるデータ解析基盤、機械学習エンジンを活用することで、あらゆる領域において当社のミッションである「人に人らしい仕事を。」の実現を目指し、各事業を行っております。

**(注) 1. DSP (デマンドサイド・プラットフォーム)**

広告主側から見た広告効率の最大化を支援するシステム。RTBの技術を活用し、広告主や広告代理店がSSP等を対象に、ユーザーの1視聴毎に、広告枠に対してリアルタイムに最適な自動入札取引・広告配信を行うシステムを提供するプラットフォーム

**2. SSP (サプライサイド・プラットフォーム)**

媒体社側から見た広告効果の最大化を支援するシステム。媒体社が広告枠を管理及び販売する際に使用するプラットフォームであり、DSPのリアルタイムな入札に対応する技術をもつ

**3. DMP (データ・マネジメント・プラットフォーム)**

広告主がもつ自社サイトへのアクセスデータ、広告配信データ、会員データなどのデータを管理及び解析し、メール配信や分析調査などの様々なデータ活用チャネルと連携し利用可能にする、データ統合管理ツール

**4. RTB (リアルタイムビidding)**

ウェブサイトに来訪したユーザーの1視聴毎にリアルタイムにインターネット広告の入札が行われる仕組み

**5. アドエクスチェンジ**

広告枠のオープンなマーケットプレイス。媒体社、アドネットワーク、DSP、SSPなどは、このマーケットプレイスを通じて広告枠を売買することができる

**6. ディスプレイ広告**

ウェブサイトに表示される広告で、画像やFlash、動画などによる広告

**7. 検索連動型広告**

ユーザーが検索エンジンに入力した検索キーワードに関連した広告を配信・表示する広告配信方法

**8. アドネットワーク**

複数の媒体サイトの広告枠を束ねてネットワーク化し、広告販売や広告配信を一元的に管理して、収益化を実現するモデル

**9. コンバージョン**

会員登録や資料請求、商品購入など広告主の望む行動を起こすこと

## [ 事業系統図 ]

以上の事項を事業系統図に示すと次のとおりであります。



なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準のうち、上場会社の規模との対比で定められる数値基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) FREAKOUT PTE.LTD. (注)3、8	シンガポール共和国 シンガポール市	19,386 千シンガポールドル	投資事業 その他事業	100.0	資金の貸付 役員の兼務2名
PT.FreakOut dewina Indonesia	インドネシア共和国 ジャカルタ市	2,500,000 千インドネシア ルピア	広告・ マーケ ティング 事業	100.0 〔1.0〕	-
株式会社フリークアウト (注)3、5	東京都港区	51,000千円	広告・ マーケ ティング 事業	100.0	経営指導料等 資金の借入 役員の兼務1名
adGeek Marketing Consulting Co.,Ltd. (注)6	中華民国(台湾) 台北市	20,200千台湾元	広告・ マーケ ティング 事業	66.7 〔66.7〕	役員の兼務1名
本田商事株式会社	東京都港区	30,000千円	広告・ マーケ ティング 事業	100.0	経営指導料等 資金の貸付 役員の兼務1名
FreakOut China Co., Ltd.	中華人民共和国 上海市	1,700千中国元	広告・ マーケ ティング 事業	100.0 〔100.0〕	役員の兼務2名
Playwire,LLC (注)3、7	米国フロリダ州	-	広告・ マーケ ティング 事業	75.0 〔75.0〕	役員の兼務1名
その他 24社	-	-	-	-	-
(持分法適用関連会社)					
株式会社IRIS	東京都港区	10,000千円	広告・ マーケ ティング 事業	49.0	連結子会社との 営業取引
株式会社インティメート・ マージャー (注)4	東京都港区	469,753千円	その他事 業	38.2	連結子会社との 営業取引
株式会社デジタルフト (注)4	東京都港区	136,461千円	広告・ マーケ ティング 事業	30.9	連結子会社との 営業取引
その他 5社	-	-	-	-	-
(その他の関係会社)					
伊藤忠商事株式会社(注)4	東京都港区	253,448百万円	卸売業	(15.8)	役員の受入1名

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の〔内書〕は間接所有であります。

3. 特定子会社であります。

4. 有価証券報告書の提出会社であります。

5. 株式会社フリークアウトについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	5,031,270千円
	経常利益	440,178 "
	当期純利益	302,425 "
	純資産額	840,465 "
	総資産額	2,751,883 "

6 . adGeek Marketing Consulting Co.,Ltd.については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	3,638,946千円
	経常利益	91,470 "
	当期純利益	73,557 "
	純資産額	247,761 "
	総資産額	1,182,637 "

7 . Playwire,LLCについては、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	15,666,105千円
	経常利益	1,474,940 "
	当期純利益	1,474,940 "
	純資産額	2,946,440 "
	総資産額	6,562,572 "

8 . 債務超過会社で債務超過の額は、2022年9月末時点で1,353,255千円となっております。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2022年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数（名）
広告・マーケティング事業	433 (7)
その他事業	45 (0)
合計	478 (7)

(注) 1 . 従業員数は就業人員であります。

2 . 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

### (2) 提出会社の状況

2022年9月30日現在

従業員数（名）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
45 (0)	36.9	2.0	8,941

(注) 1 . 従業員数は就業人員であります。

2 . 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

3 . 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは「人に入らしい仕事を。」をミッションとして、日本、北米、アジアの広告業界において、広告主の広告価値最大化、媒体社の収益最大化を、卓越したプロダクトの提供により推進してまいります。また、広告以外の領域においても、当社の技術資産であるデータ解析基盤、機械学習エンジンをベースとして、流通・小売関連技術(Retail Tech)領域、金融関連技術(Fin Tech)領域など、既存の領域に捉われず、複数の産業領域に対して、「人に入らしい仕事を。」に専念できるためのサービスを提供してまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループが重要視している経営指標は、売上高及びEBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額+持分法による投資利益+株式報酬費用)であります。

#### (3) 経営環境及び中長期的な会社の経営戦略等

当社グループの経営環境及び中長期的な会社の経営戦略等はセグメント毎に分けております。

広告・マーケティング事業においては、インターネット広告市場における各領域の成長に合わせて、国内では既存の事業に加えて、「Red For Publishers」からリブランディングされた「Scarlet」による収益貢献、また、中期経営計画のフォーカス領域である「プレミアム媒体支援」事業の一部である、動画・Connected TV領域やモバイルマーケティングプラットフォーム「Red」を積極展開するほか、海外では、すでに進出した拠点及びM&Aを実施した先の効率化による各個別拠点・子会社の収益化及びグループシナジーによる収益基盤の強化を重点戦略として進めてまいります。

投資事業は、国内外において有望なベンチャー企業が誕生する環境が継続していると認識しており、これまでの投資実績を活かし引き続き将来有望なベンチャー企業への投資を行ってまいります。

その他事業は、主な投資先である金融関連技術(Fin Tech)領域においては順調な売上拡大及び収益改善が続いており、今後も事業拡大を図る方針であります。

#### (4) 優先的に対処すべき課題

##### 開発力の更なる強化

当社グループの更なる事業拡大にむけて、優秀なエンジニアの採用・育成の強化を国内のみならずグローバルに図ってまいります。

また、優秀なエンジニアを確保するため、エンジニアのコミュニティや勉強会で当社のプレゼンスを高め、外部エンジニアとのコネクションの拡充を行っていくとともに、様々な採用方法を活用してまいります。

##### M&A等による事業成長及び事業領域拡大

当社グループは、既存事業のシナジーが発揮できる事業領域及び当社グループの技術基盤を活用できる事業領域に対して投資を行い、また、M&A完了後においても適切なPMIを実施することで、持続的な成長に努めてまいります。

##### 内部管理体制の強化

当社グループの経営の公正性・透明性を確保するために、内部管理体制強化に取り組んでまいります。また、定期的な当社グループの内部監査の実施によるコンプライアンス体制の強化、監査等委員監査による当社グループのコーポレート・ガバナンス機能強化に取り組んでまいります。

##### 情報セキュリティのリスク対応の強化

当社グループは、ウィルスや不正な手段による外部からのシステムへの侵入、システムの障害及び役員・パートナー事業者の過誤による損害を防止するために、引き続き優秀な技術者の確保や、職場環境の整備及び社内教育による情報セキュリティの強化を図ってまいります。

##### 新型コロナウイルス感染症への対応

当社グループは、取引先様、グループの従業員とその家族等の安全と健康を第一に考え、時差出勤やテレワークの実施、リモート会議等を活用し、感染予防対策を徹底しております。感染拡大防止と事業の継続を両立させ、コロナ禍における事業資金の確保及び事業継続に注力していく所存です。

## 2【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開その他に関してリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであり、将来において発生の可能性のあるすべてのリスクを網羅するものではありません。

### (1) 事業環境に関するリスクについて

当社グループが行う事業は、技術革新・著しい市場環境の変化等に晒されております。本報告書提出日現在において、直ちに事業環境の著しい悪化につながる可能性のあるリスクは認識しておりませんが、リスク対策として、開発力の強化や仕入先の拡大等に引き続き努めてまいります。具体的な内容は次の通りです。

#### インターネットの普及について

当社グループは、主に国内外においてインターネット上でサービスの提供をしております。インターネットの更なる普及及び利用拡大、企業の経済活動におけるインターネット利用の増加等が成長のための基本的な条件と考えております。

しかしながらインターネットの普及に伴う弊害の発生や利用に関する新たな法的規制や業界団体による規制の導入、その他予期せぬ要因により、今後の普及及び利用拡大を阻害されるような状況が生じた場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### インターネット広告市場について

近年、インターネット広告市場は拡大傾向にあり、2021年のインターネット広告市場はマスコミ四媒体（新聞、雑誌、ラジオ、テレビメディア）広告市場を上回るほどになっております。

しかしながら、広告市場は、景気動向や広告主の広告戦略の変化などによる影響を受け易い状況にあるため、今後これらの状況に変化が生じた場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### プログラマティック広告の普及について

当社グループの主要サービスであるインターネット広告のプログラマティック広告取引は、広告業界において普及し、相応のシェアを占めるにいたりました。しかしながら、一部メディアにおいては従来の非プログラマティックな広告取引に回帰が見られるなど、その将来性はいまだ不透明な部分があることから、今後においてプログラマティック広告取引の普及及び利用が減退する状況が生じた場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 技術革新について

インターネット業界においては、事業に関連する技術革新のスピードや顧客ニーズの変化が早く、それに基づく新サービスが常に生み出されております。また、インターネット広告業界においても、新しい広告手法やテクノロジーが次々と開発されております。当社グループが、これらの変化へ適切に対応できない場合、当社グループの業界における競争力が低下し、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競合について

当社グループの主要サービスであるプログラマティック広告取引を行っている事業者は、国内において数社存在しております。また、プログラマティック広告取引は、国内で今後拡大が見込まれており、海外の既存のプログラマティック広告取引事業者が日本国内のマーケットへ参入してきているため、参入企業が増加し、競争の激化やその対策のためのコスト負担等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 仕入先について

当社グループの主要サービスであるプログラマティック広告取引は、取引形態の性質上、広告枠を提供するSSP事業者、アドエクスチェンジ事業者及び媒体社からの仕入が必要となります。そのため、SSP事業者、アドエクスチェンジ事業者及び媒体社の方針、事業戦略の転換等によって、取引が継続されず広告枠の仕入ができなくなった場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 法的規制について

現在のところ当社グループの事業継続に著しく重要な影響を及ぼす法的規制はありませんが、インターネット関連分野においては「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」（2002年5月施行）や、「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」（2000年2月施行）、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（2008年6月成立）等の法的規制が存在しているほか、個人情報の取扱などについては、「個人情報の保護に関する法律」（2003年5月成立）等が存在しております。また、インターネット上のプライバシー保護の観点からクッキー（ウェブサイト閲覧者のコンピューターにインストールされ、ユーザーのウェブ閲覧履歴を監視するテキストファイル）に対する規制など、インターネット利用の普及に伴って法的規制の在り方等については検討が引き続き行われている状況にあります。

このため、今後、インターネット関連分野において新たな法令等の制定や、既存法令等の改正等による規制強化等がなされた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 自然災害等について

当社グループの事業活動に必要なサーバーについては、自然災害、事故等が発生した場合に備え、外部のデータセンターの利用や定期的バックアップ、稼働状況の監視等によりシステムトラブルの事前防止又は回避に努めております。万一、当社の本社所在地である東京都において大地震や台風等の自然災害の発生や事故により、設備の損壊や電力供給の制限等の事象が発生した場合、当社グループが提供する広告・マーケティング事業の継続に支障をきたし、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は、2022年10月以降も継続するものの、ゆるやかな回復に向かうと仮定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は不確定要素が多く、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 為替変動について

当社グループの売上高の約7割は海外子会社からのものであります。期初に想定為替レートを定めて予算等の計画を作成しておりますが、過度な為替変動は当社グループの財政状態及び経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### ロシア・ウクライナ情勢について

ロシア・ウクライナ情勢は日々変化しており、今後の影響等は不透明ですが、足下では西側諸国のロシアへの経済制裁等により交易が滞り、世界経済に大きな影響を与えております。また、一部産業領域のクライアントに広告出稿の抑制の動きがあり、ロシア・ウクライナ情勢の混乱が長期化した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

## (2) 事業ポートフォリオに関するリスクについて

当社グループの売上高は、広告・マーケティング事業の収益が当社グループに占める割合が高く、広告・マーケティング事業の経営環境が悪化した場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

リスク対策として、広告・マーケティング事業においては、海外への事業拡大により、従来の日本一国依存体制からの脱却を図り、地理的なリスク分散に努めております。

また、広告・マーケティング事業への依存度を減らすため、投資事業、その他事業等の成長にも注力しリスク分散に努めます。

なお、新規事業、海外展開については、以下のリスクを認識しております。

## 新規事業について

当社グループは今後も引き続き、積極的に新サービスないしは新規事業に取り組んで参りますが、これによりシステムへの先行投資や、人件費等の追加的な支出が発生し、利益率が低下する可能性があります。また、当初の予測とは異なる状況が発生し、新サービス、新規事業の展開が計画どおりに進まない場合、投資を回収できず、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 海外展開について

当社グループのサービスの提供にあたっては、プログラマティック広告取引の世界的な普及、拡大にあわせて国際展開を進めております。海外市場への事業進出には、各国政府の予期しない法律又は規制の変更、社会・政治及び経済情勢の変化、為替制限や為替変動、電力・通信等のインフラ障害、各種税制の不利な変更、移転価格税制による課税等、海外事業展開に共通で不可避のリスクがあります。その他、海外市場が想定どおりに成長しない場合や当社グループのサービスが海外の顧客に浸透しないこと等を要因に、投資を回収できず、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (3) システム等に関するリスクについて

当社グループは、システムトラブルの発生可能性を低減するために、安定的運用のためのシステム強化、セキュリティ強化を徹底しており、万が一トラブルが発生した場合においても短時間で復旧できるような体制を整えております。

しかしながら、システムへの一時的な過負荷や電力供給の停止、ソフトウェアの不具合、コンピューターウィルスや外部からの不正な手段によるコンピューターへの侵入、自然災害、事故など、当社グループの予測不可能な様々な要因によってシステムがダウンした場合、当社グループの事業活動に支障を生ずる可能性があります。

また、システムの作動不能や欠陥等に起因して、当社グループの信頼が失墜し取引停止等に至る場合や、当社グループに対する損害賠償請求等が発生する場合も想定され、このような場合には当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。



## (4) 事業運営体制に関するリスクについて

## 特定人物への依存について

当社代表取締役である本田謙は、オンラインマーケティングに関する豊富な経験と知識を有しており、経営方針や事業戦略の決定及びその遂行において極めて重要な役割を果たしております。

当社は、取締役会等における役員及び幹部社員の情報共有や経営組織の強化を図り、代表取締役である本田謙に過度に依存しない経営体制の整備を進めておりますが、何らかの理由により同氏が当社の業務を継続することが困難となった場合、当社グループの事業及び業績に影響を与える可能性があります。

## 人材の確保及び育成について

当社グループは、今後更なる事業拡大に対応するためには、継続して優秀な人材の確保及び育成が必要であると考えております。

しかし、必要な人材の確保及び育成が計画通り進まなかった場合には、競争力の低下や事業拡大の制約要因が生じる可能性があり、この場合、当社グループの事業及び業績に影響を与える可能性があります。

## 内部管理体制について

当社グループは、今後の事業運営及び事業拡大に対応するため、内部管理体制について一層の充実を図る必要があると認識しております。しかしながら、事業規模に適した内部管理体制の構築に遅れが生じた場合、当社グループの業績及び事業展開に影響を与える可能性があります。

## (5) その他

## 配当政策について

当社は、財務体質の強化に加えて事業拡大のための内部留保の充実等を図ることが重要であると考えておりますが、株主に対する利益還元も経営の重要課題であると認識しております。そのため、収益力の強化や事業基盤の整備を実施しつつ、内部留保の充実状況及び企業を取り巻く事業環境を勘案したうえで、株主に対して安定的かつ継続的な利益還元を実施する方針であります。内部留保につきましては、当社の競争力の維持・強化による将来の収益力向上を図るための設備投資及び効率的な体制整備に有効に活用する方針であります。

## 新株予約権の行使及び新株予約権付社債の転換による株式価値の希薄化について

当社では、ストック・オプションとして役員及び従業員に対して新株予約権を発行しているほか、資金調達の一環として新株予約権及び新株予約権付社債を発行することがあります。新株予約権が行使された場合や、新株予約権付社債が転換された場合には、株式価値の希薄化や株式売買需給への影響をもたらす、当社株価形成に影響を及ぼす可能性があります。

なお、新株予約権の条件は、「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況(2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

## 資金調達について

当社グループでは、安定的な資金調達をはかるため、金融機関との間でシンジケートローン及びコミットメントライン契約を締結しておりますが、本契約には一定の財務制限条項が付されており、当社グループがこれらに抵触した場合、期限の利益を喪失し、一括返済を求められる等、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## M&amp;A及び資本業務提携について

当社グループは、同業他社等に対するM&Aや資本業務提携を実施することにより当社グループの事業を補完・強化することが可能であると考えており、事業規模拡大のための有効な手段の一つであると位置づけております。今後もM&Aや資本業務提携等を通じて事業拡大又は人員確保を継続していく方針であります。M&A等の実行に際しては、対象企業に対して財務・税務・法務・ビジネス等に関する詳細なデューデリジェンスを行い、各種リスク低減に努める方針であります。これらの調査で確認・想定されなかった事象がM&A等の実行後に判明あるいは発生した場合や、市場環境の変化等により事業展開が計画どおりに進まない場合には、対象企業の投資価値の減損処理を行う等、当社グループの業績及び事業展開に影響を与える可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は以下のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。

そのため、当連結会計年度における経営成績に関する説明は、売上高については前連結会計年度と比較しての増減額及び前年同期比（％）を記載せずに説明しております。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

#### 財政状態及び経営成績の状況

当社グループは、ミッションである「人に人らしい仕事を。」の実現を目指し、日本、北米、東アジア、及び東南アジアを中心に、グローバルに事業を展開しております。

当連結会計年度においては、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残る中で、ロシア・ウクライナ情勢、米国の景気後退懸念と歴史的なドル高の進行など、非常に先行き不透明な状況が継続しております。

このようなマクロ環境のもと、当連結会計年度における当社の経営成績は以下のような内容となりました。

まず、国内広告・マーケティング事業においては、中期経営計画のフォーカス領域である「プレミアム媒体支援」事業が順調に収益貢献し、株式会社フリークアウトの主力プロダクトであるモバイルマーケティングプラットフォーム「Red」及びプレミアム媒体を対象とした広告プラットフォーム「Scarlet」が順調に推移いたしました。一方で、ロシア・ウクライナ情勢を受けて、一部産業領域のクライアントに広告出稿の抑制の動きがあり、当社の業績にも一部影響を与えております。

次に、海外広告・マーケティング事業においては、米国の景気後退懸念による広告市場の縮小の動きはありましたが、直近の為替変動（円安）のポジティブな影響を受けて、当連結会計年度は米国法人Playwire, LLCがさらに成長し業績を強く牽引いたしました。また、中国、インドネシア、台湾、マレーシアを中心とする海外事業拠点につきましても、大幅な増収、増益を実現しております。

最後に、持分法適用会社では、タクシー内のデジタルサイネージを提供するIRIS社が大きく成長し、順調に利益貢献いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高28,965百万円、営業利益1,330百万円（前年同期比31.8%増）、経常利益2,709百万円（前年同期比143.6%増）、EBITDA（営業利益+減価償却費+のれん償却額+持分法による投資利益+株式報酬費用）2,407百万円（前年同期比81.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1,364百万円（前年同期比135.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(広告・マーケティング事業)

広告・マーケティング事業では、モバイルマーケティングプラットフォーム「Red」(DSP)、プレミアム媒体を対象とした広告プラットフォーム「Scarlet」、ネイティブアドプラットフォームなどの提供を行い、広告主の広告効果最大化及び媒体社の収益最大化に取り組みました。

当連結会計年度においては、プレミアム媒体支援事業が順調に成長し、株式会社フリークアウトの主力プロダクトであるモバイルマーケティングプラットフォーム「Red」及び「Scarlet」についても順調に推移しております。

また、海外子会社の事業は、円安によるポジティブな影響を含めて、引き続きPlaywire, LLCが強力に業績を牽引したほか、自社で設立した海外事業拠点が黒字で着地するなどにより、海外事業全体として強く収益を牽引いたしました。

この結果、広告・マーケティング事業の外部顧客への売上高は28,876百万円、セグメント利益は2,261百万円(前年同期比59.6%増)、EBITDAは3,307百万円(前年同期比78.9%増)となりました。

(投資事業)

投資事業では、グローバル展開のポテンシャルを有する製品/ソリューションを開発するITベンチャー企業を主たる投資対象として、投資リターンによる企業価値の向上を図るための事業を行っております。

当連結会計年度においては、一部保有する有価証券の減損を実施いたしました。

この結果、投資事業の外部顧客への売上高は1百万円、セグメント損失は325百万円(前年同期はセグメント利益147百万円)、EBITDAは350百万円(前年同期は124百万円)となりました。

(その他事業)

その他事業では、国内外のグループにおける経営管理機能等の提供をしております。

当連結会計年度においては、M&Aによる投資先を中心とする海外拠点の拡大に伴う管理体制の強化、海外子会社からの配当金受領等を実施いたしました。

この結果、その他事業の外部顧客への売上高は87百万円、セグメント利益は313百万円(前年同期比17.5%増)、EBITDAは222百万円(前年同期比29.3%増)となりました。

財政状態は次のとおりであります。

(資産)

当連結会計年度末における総資産は24,734百万円となり、前連結会計年度末と比べ4,199百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が1,291百万円、売掛金が1,557百万円、投資有価証券が391百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債は14,691百万円となり、前連結会計年度末と比べ2,013百万円増加しました。これは主に、買掛金が1,136百万円、短期借入金が1,051百万円、社債が1,360百万円増加した一方で、転換社債型新株予約権付社債が1,500百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は10,042百万円となり、前連結会計年度末と比べ2,186百万円増加しました。これは主に、利益剰余金が1,351百万円、為替換算調整勘定が301百万円増加したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より1,291百万円増加し、7,287百万円となりました。当連結会計年度末における各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動においては、877百万円の資金流入(前年同期は1,902百万円の資金流入)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上2,403百万円による流入があったものの、為替差損益1,044百万円による流出があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動においては、572百万円の資金流出(前年同期は1,344百万円の資金流出)となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出309百万円と投資有価証券の取得による支出223百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動においては、325百万円の資金流入(前年同期は4,632百万円の資金流出)となりました。これは主に、社債の償還による支出1,634百万円と長期借入金の返済1,353百万円による資金流出があったものの、社債の発行による収入1,758百万円、短期借入金の純増減1,207百万円、長期借入れによる収入644百万円による資金流入があったためであります。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

該当事項はありません。

b. 受注実績

該当事項はありません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前連結会計年度比(%)
広告・マーケティング事業	28,876	-
投資事業	1	-
その他事業	87	-
合計	28,965	-

(注) 1. セグメント間の取引は相殺消去しております。

2. 当連結会計年度より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。そのため、前連結会計年度比(%)の記載は省略しております。

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。なお、当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針及び見積りにつきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

この連結財務諸表の作成にあたり、会計上の見積りは合理的な基準に基づいて行っておりますが、実際の結果は不確実性を伴うため、見積りと異なる場合があります。

会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、特に重要なものは次のとおりです。

## イ 営業投資有価証券(流動資産「その他」)、投資有価証券の評価

当社グループは、非上場企業に対して投資先企業の将来成長による超過収益力を見込んで、1株当たりの純資産額を基礎とした金額に比べ相当程度高い価額で投資を行っております。当該非上場株式は、取得原価をもって貸借対照表価額としていますが、超過収益力を見込めなくなり、これらを反映した実質価額が取得原価に比べて著しく低下した場合は、減損処理を行います。

超過収益力が毀損した場合、実質価額が減額されるため、非上場株式等の評価に当たっては、投資時の事業計画の達成状況の分析、KPIの推移の確認、第三者が行ったファイナンスの状況の確認等を総合的に勘案することにより、超過収益力の毀損の有無を評価しています。

実質価額が取得原価に比べて著しく低下した場合には、減損処理の実施により、翌連結会計年度の連結財務諸表に影響を及ぼす可能性があります。

## ロ のれんの評価

当社グループは、のれんの減損の兆候がある資産または資産グループにつき、将来の収益性が著しく低下した場合には、のれんの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上することとしております。

のれんにおける回収可能価額の評価の前提条件は、決算日時点で入手可能な情報に基づき合理的に判断しておりますが、これらの前提条件は長期的な見積りに基づくため、将来の経営環境の変化による収益性の変動や市況の変動により、回収可能性を著しく低下させる変化が見込まれた場合、減損損失の計上が必要となる場合があります。

## 当連結会計年度の財政状態等の状況に関する認識及び分析・検討内容

「第2. 事業の状況 3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。

そのため、当連結会計年度における経営成績に関する説明は、売上高及び売上原価については前連結会計年度と比較しての増減額及び前年同期比（％）を記載せずに説明しております。

売上高は、28,965百万円、売上原価は、21,122百万円となりました。前連結会計年度からの変動の主な要因は、前連結会計年度より引き続きPlaywire, LLCの業績の北米を中心とする成長と国内の広告・マーケティング事業が堅調に推移したことによるものであり、売上増加に伴い媒体社への支払費用も増加しております。販売費及び一般管理費は、6,511百万円（前年同期比10.9%増）となりました。増加の主な要因は、海外の広告・マーケティング事業が好調なことから人件費等が増加しているなどによるものであります。この結果、営業利益は1,330百万円（前年同期比31.8%増）となりました。

営業外収益は1,619百万円（前年同期比382.2%増）、営業外費用は239百万円（前年同期比3.1%増）となりました。営業外収益の主な内容は、為替差益が発生したことによるものであります。また、営業外費用の主な内容は、資金調達費用、社債発行費及び支払利息によるものであります。この結果、経常利益は2,709百万円（前年同期比143.6%増）となりました。

EBITDAIは2,407百万円（前年同期比81.9%増）となりました。主な要因は、Playwire, LLCの成長や国内の広告・マーケティング事業の成長による営業利益の増加によるものであります。

特別利益は57百万円（前年同期比95.6%減）、特別損失は364百万円（前年同期比63.9%減）となりました。特別利益の主な内容は、関係会社株式売却益及び持分変動利益の計上によるものであります。特別損失の主な内容は、投資有価証券評価損及び貸倒引当金繰入額の計上によるものであります。

税金等調整前当期純利益は2,403百万円（前年同期比70.6%増）となりました。法人税等は、579百万円（前年同期比22.3%増）となりました。また、非支配株主に帰属する当期純利益は458百万円（前年同期比29.6%増）となりました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は1,364百万円（前年同期比135.1%増）となりました。

なお、セグメント別には、広告・マーケティング事業の外部顧客への売上高は28,876百万円、EBITDAIは3,307百万円（前年同期比78.9%増）、投資事業の外部顧客への売上高は1百万円、EBITDAIは350百万円（前年同期比124百万円）、その他事業の外部顧客への売上高は87百万円、EBITDAIは222百万円（前年同期比29.3%増）となりました。

この要因については以下のとおりです。まず広告・マーケティング事業において、マクロ環境では新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残る中で、ロシア・ウクライナ情勢などの影響が生じた一方で、中期経営計画のフォーカス領域である「プレミアム媒体支援」事業が順調に収益貢献し、モバイルマーケティングプラットフォーム「Red」及びプレミアム媒体を対象とした広告プラットフォーム「Scarlet」は順調に推移いたしました。また、海外子会社の事業も米国の景気後退懸念と歴史的なドル高の進行など不安定な状況でしたが、Playwire, LLCを中心に堅調に推移したことによるものであります。また、その他事業においてはM&Aによる投資先を中心とする海外拠点の拡大に伴う管理体制の強化、海外子会社からの配当金受領等を実施いたしました。

経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2．事業の状況 2．事業等のリスク」をご参照ください。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源に関する情報

キャッシュ・フローの分析については、「第2．事業の状況 3．経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（1）経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

翌連結会計年度のキャッシュ・フローの見通しにつきましては、営業利益水準が当連結会計年度からより成長する見込みであることから、営業活動で得られるキャッシュ・フローは、当連結会計年度と比較して増加する見込みであります。一方で、投資活動により得られるキャッシュ・フローについては、特段の有価証券の取得等を予定していないことから、横ばいとなる見込みであります。また、財務活動によるキャッシュ・フローについては、金融機関からの借入による資金調達を行い、借入金の返済に充当する等を見込んでおります。

以上の結果として、翌連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高については、当連結会計年度末と比較して増加する見込みです。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施した設備投資の総額は400,511千円であり、その主なものは広告・マーケティング事業におけるソフトウェア開発等301,893千円であります。

なお、有形固定資産のほか、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2022年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	リース資産	合計	
本社 (東京都港区)	その他事業	本社機能	0	0	0	0	45 (0)

(注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。

2. 従業員数の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

3. 帳簿価額は減損損失計上後の金額であります。

##### (2) 国内子会社

重要性がないため、記載を省略しております。

##### (3) 在外子会社

重要性がないため、記載を省略しております。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設及び除却等の計画はありません。



## 第4【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2022年12月23日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,022,924	18,022,924	東京証券取引所 グロース市場	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、単元株式数は100株であります。
計	18,022,924	18,022,924	-	-

(注) 提出日現在の発行数には、2022年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

## 第7回新株予約権

決議年月日	2017年1月16日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 1 当社従業員 3 当社子会社取締役 2 当社子会社従業員 1
新株予約権の数(個)	2,500(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 250,000(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	3,275(注)2
新株予約権の行使期間	2018年1月1日～2025年3月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,275 資本組入額 1,638
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡及び質入れは、これを認めないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

当事業年度の末日(2022年9月30日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2022年11月30日)において、これらの事項に変更はありません。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、普通株式100株であります。

なお、新株予約権の割当日後に、当社が当社普通株式の株式分割(株式無償割当を含む。)または株式併合を行う場合には、次の算式による割当株式数の調整を行い、調整の結果生ずる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後割当株式数 = 調整前割当株式数 × 株式分割または株式併合の比率

2. 新株予約権発行の日以降、株式分割または株式併合が行われる場合、行使価額は株式分割または株式併合の比率に応じ比例的に調整されるものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとする。

また、本新株予約権発行の日以降、時価を下回る価額で当社の普通株式を発行または処分する場合(新株引受権または新株予約権の行使の場合を除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

3. 新株予約権者は、2017年9月期から2020年9月期までのいずれかの期において当社の有価証券報告書に記載される連結損益計算書の経常利益又は同有価証券報告書に記載される連結損益計算書若しくは連結キャッシュ・フロー計算書上の数値に基づいて算出されるEBITDAが、下記に掲げる各金額を超過した場合、各新株予約権者に割り当てられた新株予約権のうち当該各号に掲げる割合(以下、「行使可能割合」という。)を限度として当該経常利益又はEBITDAの水準を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月1日から行使することができる。なお、EBITDAは、「営業利益+減価償却費+のれん償却額+持分法による投資利益」の算式に基づいて算出された数値とする。

- (a) 経常利益が12億円を超過した場合 行使可能割合：10%
- (b) EBITDAが18億円を超過した場合 行使可能割合：50%
- (c) EBITDAが24億円を超過した場合 行使可能割合：75%
- (d) EBITDAが30億円を超過した場合 行使可能割合：100%

なお、経常利益及びEBITDAの判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を当社取締役会にて定めるものとする。また、行使可能割合の計算において、各新株予約権者の行使可能な本新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。

新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。

#### 第11回新株予約権

決議年月日	2020年11月17日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社取締役 3 当社従業員 12 当社子会社従業員 9
新株予約権の数（個）	9,120（注）1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数（株）	普通株式 912,000（注）1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	941（注）2
新株予約権の行使期間	2024年1月1日～2028年12月24日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 941 資本組入額 471
新株予約権の行使の条件	（注）3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

当事業年度の末日（2022年9月30日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2022年11月30日）において、これらの事項に変更はありません。

（注）1．新株予約権 1 個につき目的となる株式数は、普通株式100株であります。

なお、新株予約権の割当日後に、当社が当社普通株式の株式分割（株式無償割当を含む。）または株式併合を行う場合には、次の算式による割当株式数の調整を行い、調整の結果生ずる 1 株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後割当株式数 = 調整前割当株式数 × 株式分割または株式併合の比率

2．新株予約権発行の日以降、株式分割または株式併合が行われる場合、行使価額は株式分割または株式併合の比率に応じ比例的に調整されるものとし、調整により生ずる 1 円未満の端数は切り上げるものとする。

また、本新株予約権発行の日以降、時価を下回る価額で当社の普通株式を発行または処分する場合（新株引受権または新株予約権の行使の場合を除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる 1 円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{ 株あたり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

3. 新株予約権者は、2023年9月期における当社の有価証券報告書において計算されるEBITDA（以下、損益計算書に記載された営業利益に持分法による投資損益並びにキャッシュ・フロー計算書に記載された減価償却費、のれん償却額及び株式報酬費用を加算した額をいう。）の額が、下記(a)乃至(d)に掲げる水準を満たしている場合に限り、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、当該各号に掲げる割合（以下、「行使可能割合」という。）の個数を限度として、本新株予約権を行使することができる。

(a) EBITDAが15億円を超過した場合 行使可能割合：15%

(b) EBITDAが18億円を超過した場合 行使可能割合：50%

(c) EBITDAが24億円を超過した場合 行使可能割合：75%

(d) EBITDAが30億円を超過した場合 行使可能割合：100%

なお、EBITDAの判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を当社取締役会にて定めるものとし、行使可能割合の計算において、各新株予約権者の行使可能な本新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。

新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

#### 第12回新株予約権

決議年月日	2021年6月3日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社従業員 1
新株予約権の数（個）	250（注）1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数（株）	普通株式 25,000（注）1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1,605（注）2
新株予約権の行使期間	2024年1月1日～2028年12月24日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 1,605 資本組入額 803
新株予約権の行使の条件	（注）3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

当事業年度の末日（2022年9月30日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2022年11月30日）において、これらの事項に変更はありません。

（注）1．新株予約権1個につき目的となる株式数は、普通株式100株であります。

なお、新株予約権の割当日後に、当社が当社普通株式の株式分割（株式無償割当を含む。）または株式併合を行う場合には、次の算式による割当株式数の調整を行い、調整の結果生ずる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後割当株式数 = 調整前割当株式数 × 株式分割または株式併合の比率

2. 新株予約権発行の日以降、株式分割または株式併合が行われる場合、行使価額は株式分割または株式併合の比率に応じ比例的に調整されるものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとする。  
また、本新株予約権発行の日以降、時価を下回る価額で当社の普通株式を発行または処分する場合（新株引受権または新株予約権の行使の場合を除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

3. 新株予約権者は、2023年9月期における当社の有価証券報告書において計算されるEBITDA（以下、損益計算書に記載された営業利益に持分法による投資損益並びにキャッシュ・フロー計算書に記載された減価償却費、のれん償却額及び株式報酬費用を加算した額をいう。）の額が、下記(a)乃至(d)に掲げる水準を満たしている場合に限り、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、当該各号に掲げる割合（以下、「行使可能割合」という。）の個数を限度として、本新株予約権を行使することができる。

- (a) EBITDAが15億円を超過した場合 行使可能割合：15%
- (b) EBITDAが18億円を超過した場合 行使可能割合：50%
- (c) EBITDAが24億円を超過した場合 行使可能割合：75%
- (d) EBITDAが30億円を超過した場合 行使可能割合：100%

なお、EBITDAの判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を当社取締役会にて定めるものとし、行使可能割合の計算において、各新株予約権者の行使可能な本新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。

新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

なお、2022年6月15日開催の取締役会における決議に基づき、2020年7月6日に発行した第3回無担保転換社債型新株予約権付社債（転換社債型新株予約権付社債間限定同順位特約付）の未償還残高の全額を、2022年7月6日に買取り、消却しております。

## (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2017年10月3日 (注)2	144,000	13,300,400	250,128	1,423,505	250,128	1,403,505
2017年10月4日～ 2018年1月22日 (注)1	10,500	13,310,900	5,250	1,428,755	5,250	1,408,755
2018年1月23日 (注)3	-	13,310,900	-	1,428,755	800,000	608,755
2018年1月24日～ 2019年1月8日 (注)1	10,000	13,320,900	5,000	1,433,755	5,000	613,755
2019年1月9日 (注)4	2,577,400	15,898,300	1,896,966	3,330,721	1,896,966	2,510,721
2019年1月10日～ 2019年9月30日 (注)1	6,400	15,904,700	3,112	3,333,834	3,112	2,513,834
2019年10月1日～ 2020年3月30日 (注)1	6,000	15,910,700	2,625	3,336,459	2,625	2,516,459
2020年3月31日 (注)5	-	15,910,700	1,000,000	2,336,459	1,000,000	1,516,459
2020年4月1日～ 2020年9月30日 (注)1	750,000	16,660,700	314,703	2,651,163	314,703	1,831,163
2020年10月1日～ 2021年9月30日 (注)1、6	1,354,724	18,015,424	897,136	3,548,299	897,136	2,728,299
2021年10月1日～ 2022年9月30日 (注)1	7,500	18,022,924	3,750	3,552,049	3,750	2,732,049

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

## 2. 有償第三者割当

発行価格 3,474円

資本組入額 1,737円

割当先 ドイツ銀行ロンドン支店

## 3. 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。

## 4. 有償第三者割当

発行価格 1,472円

資本組入額 736円

割当先 伊藤忠商事株式会社

## 5. 会社法第447条第1項及び第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。

## 6. 第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の権利行使により、発行済株式総数が1,117,724株、資本金及び資本準備金がそれぞれ750,000千円増加しております。

## (5) 【所有者別状況】

2022年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	6	27	21	52	13	2,867	2,986	-
所有株式数(単元)	-	21,043	1,640	35,186	38,288	38	84,008	180,203	2,624
所有株式数の割合(%)	-	11.68	0.91	19.52	21.25	0.02	46.62	100.00	-

(注) 自己株式145,184株は、「個人その他」に1,451単元、「単元未満株式の状況」に84株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
本田 謙	SINGAPORE	6,145,700	34.38
伊藤忠商事株式会社	東京都港区北青山2丁目5-1号	2,835,700	15.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,357,700	7.59
スカパーJ S A T株式会社	東京都港区赤坂1丁目8-1	670,600	3.75
NOMURA P B NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN(CASH P B) (常任代理人 野村證券株式会社)	1 ANGEL LANE LONDON EC4R 3AB UNITED KINGDOM (東京都中央区日本橋1丁目13-1)	636,500	3.56
THE BANK OF NEW YORK 133652 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	BOULEVARD ANSPACH 1, 1000 BRUSSELS, BELGIUM (東京都港区港南2丁目15-1)	580,600	3.25
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-12	521,600	2.92
BBH(LUX) FOR FIDELITY FUNDS - PACIFIC POOL (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	2A RUE ALBERT BORSCHE TTE LUXEMBOURG L-1246 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	450,000	2.52
YJ1号投資事業組合	東京都千代田区紀尾井町1-3	334,100	1.87
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10286, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1)	320,500	1.79
計	-	13,853,000	77.49

(注) 1. 当事業年度末現在における、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)及び株式会社日本カストディ銀行(信託口9)の信託業務に係る株式数は、当社として把握することができないため記載しておりません。

2. 2022年9月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、フィデリティ投信株式会社が2022年8月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区六本木7丁目7番7号	1,205,300	6.69

3. 2022年7月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、アセットマネジメントONE株式会社他共同保有者が2022年6月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントONE株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8番2号	1,281,200	7.11
アセットマネジメントONEインターナショナル (Asset Management One International Ltd.)	30 Old Bailey, London, EC4M 7AU, UK	20,300	0.11

4. 2022年10月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー他共同保有者が2022年9月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー (Baillie Gifford & Co)	カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド	901,100	5.00
ベイリーギフォード・オーバースーズ・リミテッド (Beillie Gifford Overseas Limited)	カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド	21,800	0.12

5. 2022年6月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、野村證券株式会社他共同保有者が2022年6月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番1号	109,658	0.61
ノムラ インターナショナル ピーエルシー (NOMURA INTERNATIONAL PLC)	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	92,600	0.51
野村アセットマネジメント株式会社	東京都江東区豊洲二丁目2番1号	545,500	3.03



## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 145,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,875,200	178,752	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 2,624	-	-
発行済株式総数	18,022,924	-	-
総株主の議決権	-	178,752	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式が84株含まれております。

## 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社フリークアウト・ ホールディングス	東京都港区六本木 六丁目3番1号	145,100	-	145,100	0.81
計	-	145,100	-	145,100	0.81

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移 転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	145,184	-	145,184	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2022年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## 3【配当政策】

当社は、財務体質の強化に加えて事業拡大のための内部留保の充実等を図ることが重要であると考えておりますが、株主に対する利益還元も経営の重要課題であると認識しております。

そのため、収益力の強化や事業基盤の整備を実施しつつ、内部留保の充実状況及び企業を取り巻く事業環境を勘案したうえで、株主に対して安定的かつ継続的な利益還元を実施する方針であります。内部留保につきましては、当社の競争力の維持・強化による将来の収益力向上を図るための設備投資及び効率的な体制整備に有効に活用する方針であります。

当該方針に基づき、当期の配当は実施いたしません。

なお、当社は、剰余金を配当する場合には、期末配当の年1回を基本的な方針としておりますが、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の効率化を図ると同時に、経営の健全性、透明性及びコンプライアンスを高めていくことが長期的に企業価値を向上させていくと考えており、それによって、株主をはじめとした多くのステークホルダーへの利益還元ができると考えております。経営の健全性、透明性及びコンプライアンスを高めるために、コーポレート・ガバナンスの充実を図りながら、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できる組織体制を構築することが重要な課題であると位置付け、会社の所有者たる株主の視点を踏まえた効率的な経営を行っております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

#### イ．会社の機関の基本説明

##### a．取締役会

当社の取締役会は、会社の経営方針、経営戦略、事業計画、重要な財産の取得及び処分、重要な組織及び人事に関する意思決定機関として、本書提出日現在において、4名の取締役（監査等委員であるものを除く。）及び3名の監査等委員である取締役で構成しており、月1回の定時取締役会の開催に加え、重要案件が生じたときに臨時取締役会を都度開催しております。そのことにより、迅速かつ的確な意思決定と業務執行に対する監督機能の強化を図るとともに、意見交換、情報共有を密に行い、正確な経営情報を迅速に開示できる体制を構築します。

構成員：代表取締役社長 Global CEO 本田 謙（議長）

取締役 永井 秀輔

取締役 時吉 啓司

取締役 竹内 誠

社外取締役（監査等委員） 井出 博之

社外取締役（監査等委員） 高田 祐史

社外取締役（監査等委員） 松橋 雅之

##### b．監査等委員会

当社の監査等委員会は社外取締役3名（うち常勤監査等委員1名）で構成され、毎月1回の監査等委員会を開催、取締役の法令・定款遵守状況及び職務執行状況を監査し、業務監査及び会計監査が有効に実施されるよう努めております。

常勤監査等委員は取締役会及びその他重要な会議に出席するほか、監査計画に基づき重要書類の閲覧、役員への質問等の監査手続を通して、経営に対する適正な監視を行っております。また、内部監査室及び会計監査人と連携して適正な監査の実施に努めております。

構成員：社外取締役（監査等委員） 井出 博之（議長）

社外取締役（監査等委員） 高田 祐史

社外取締役（監査等委員） 松橋 雅之

##### c．内部監査

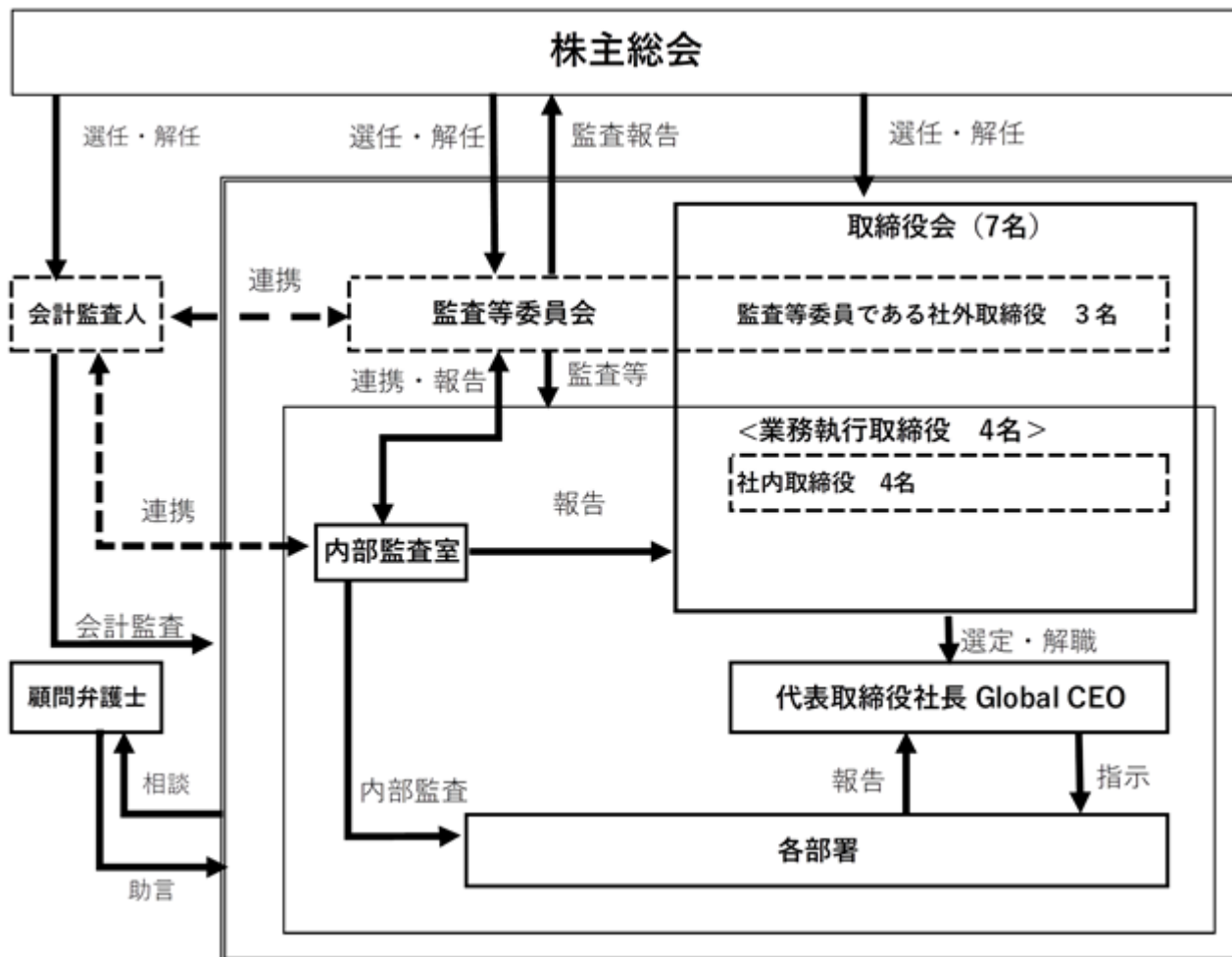
当社の内部監査は、代表取締役直轄の内部監査室の内部監査担当者3名が、内部監査計画に従い、グループ会社含む各部署に対して業務監査を実施し、取締役会及び監査等委員会に対して監査結果を報告しております。代表取締役は、監査結果の報告に基づき、内部監査担当者を通じて被監査部門に対して改善を指示し、その結果を報告させることで内部統制の維持改善を図っております。また、内部監査担当者と監査等委員会、会計監査人が監査を有効かつ効率的に進めるため、適宜情報交換を行っており、効率的な監査に努めております。

##### d．会計監査人

当社は和泉監査法人与監査契約を締結し、定期的な監査のほか、会計上の課題について、随時協議を行う等、適正な会計処理に努めております。

ロ．当社のコーポレート・ガバナンス体制

当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は以下のとおりであります。



ハ．当該企業統治の体制を採用する理由

当社取締役会は、事業の専門性に鑑み社内取締役中心に構成されております。これにより健全で効率的な事業運営を実現するとともに、一方で社外取締役による経営の意思決定に係る客観性の確保及び監査等委員会の経営監視機能による透明性の確保が実現するものと考えられることから、上記企業統治体制を採用するものであります。

企業統治に関するその他の事項

イ．内部統制システム整備の状況

当社は、「内部統制システム構築の基本方針」を定め、取締役会その他重要会議により職務の執行が効率的に行われ、法令及び定款に適合することを確保する体制作りにも努めております。その他従業員の職務遂行に対し、監査等委員会及び内部監査室がその業務執行状況を監視し、随時必要な監査手続を実施しております。

ロ．当社及びその子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、関係会社管理規程を設け当社の取締役会において子会社の状況を報告及び子会社の重要な意思決定に当社が関与することにより、子会社の職務状況を把握できる体制を確立しております。また、当社の内部監査室が定期的な監査を実施することで、関係会社の業務の適正を確保しております。

ハ．リスク管理体制の整備の状況

当社は、経営企画室が主管部署となり「リスク管理規程」を定め、各部門との情報交換及び情報共有を行うことで、リスクの早期発見と未然防止に努めると共に、管理担当役員、内部監査室長及び外部弁護士を通報窓口とする内部通報制度を制定しております。組織的又は個人的な法令違反ないし不正行為に関する通報等について、適正な処理の仕組みを定めることにより、不正行為等による不祥事の防止及び早期発見を図っております。また、重要、高度な判断が必要とされるリスクが発見された場合には、必要に応じて顧問弁護士、監査法人、税理士、社会保険労務士などの外部専門家及び関係当局などからの助言を受ける体制を構築しております。

なお、法令遵守体制の構築を目的として「コンプライアンス規程」を定め、役員及び従業員の法令及び社会規範の遵守の浸透、啓発を図っております。

#### 取締役会の定数

当社の取締役（監査等委員であるものを除く。）の定数は5名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨定款に定めております。

#### 取締役の選任の決議要件及び解任

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨を定款で定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の定めによる決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

#### 社外取締役との責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、社外取締役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役が責任の原因となった職務遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

#### 会計監査人との責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、会計監査人との間に会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。

#### 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者である役員がその職務の執行に関し、責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により補填することとしております。

ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、被保険者が違法に利益又は便宜の提供を得た場合や犯罪行為、不正行為、詐欺行為又は法令違反行為であることを認識しながら行った場合等には填補の対象としないこととしています。

当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）、監査等委員である取締役及び執行役員並びに当社子会社の取締役、監査役及び執行役員であり、すべての被保険者についてその保険料を全額当社が負担しております。

#### 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

##### イ．中間配当

当社は、会社法第454条第5項に基づき、取締役会の決議によって毎年3月末日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

##### ロ．自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項に基づき、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

#### 八．取締役の責任免除

当社では、会社法第426条第1項に基づき、取締役（社外取締役を含みます。）が期待される役割を十分に発揮できるよう、取締役会の決議をもって、同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

## (2)【役員の状況】

## 役員一覧

男性 7名 ( 役員のうち女性の比率0% )

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
代表取締役 社長 Global CEO	本田 謙	1974年9月6日生	2005年9月 2008年4月 2010年10月 2017年1月 2018年2月	株式会社ブレイナー設立 代表取締役 ヤフー株式会社入社 広告本部 コンテンツマッチ広告開発部長 当社設立 代表取締役CEO 当社 代表取締役Global CEO 当社 代表取締役社長 Global CEO ( 現任 )	(注) 3	5,791,700 (注)5
取締役 CFO	永井 秀輔	1980年10月23日生	2004年4月 2011年3月 2013年6月 2016年11月 2017年12月	新日本監査法人( 現 EY新日本有限責任監査 法人) 入所 エンデバー・パートナーズ株式会社入社 ペットゴー株式会社 取締役CFO 当社 入社 当社 取締役CFO ( 現任 )	(注) 3	177,000
取締役	時吉 啓司	1982年5月19日生	2006年4月 2011年10月 2017年1月 2020年1月 2020年8月 2020年12月	株式会社ワコール 入社 株式会社フリークアウト( 現 当社 ) 入社 株式会社フリークアウト 代表取締役社長 ( 現任 ) 当社 執行役員 本田商事株式会社 代表取締役社長( 現任 ) 当社 取締役( 現任 )	(注) 3	183,000
取締役	竹内 誠	1967年3月30日生	1989年4月 2005年8月 2014年3月 2016年12月 2020年1月 2020年10月 2020年12月	伊藤忠商事株式会社入社 Global Network Solutions Europe Ltd. Managing Director 株式会社ファミマ・ドット・コム 執行役員 エヌシーアイ総合システム株式会社 代表取 締役常務 当社 執行役員 Playwire,LLC Director ( 現任 ) 当社 取締役( 現任 )	(注) 3	-
取締役 ( 常勤監査等委員 )	井出 博之	1968年5月23日生	1992年4月 2003年2月 2005年4月 2017年1月 2021年11月 2022年12月	株式会社富士銀行( 現 株式会社みずほ銀 行 ) 入行 KPMGビジネスアシュアランス株式会社( 現 KPMGコンサルティング株式会社 ) 入社 新日本インテグリティアシュアランス株式会 社( 現 EY新日本有限責任監査法人 ) 入社 EYアドバイザリー・アンド・コンサルティ ング株式会社( 現 EYストラテジー・アンド・ コンサルティング株式会社 ) 入社 当社 監査等委員会付 当社 取締役( 常勤監査等委員 ) ( 現任 )	(注) 4	-
取締役 ( 監査等委員 )	高田 祐史	1980年1月27日生	2003年10月 2003年10月 2004年12月 2013年8月 2015年1月 2018年12月	弁護士登録 桃尾・松尾・難波法律事務所 入所 長島・大野・常松法律事務所 入所 島田法律事務所 入所 島田法律事務所 パートナー( 現任 ) 当社 取締役( 監査等委員 ) ( 現任 )	(注) 4	-
取締役 ( 監査等委員 )	松橋 雅之	1970年7月20日生	1995年4月 2001年9月 2005年1月 2008年5月 2008年12月 2010年11月 2019年6月 2020年12月	株式会社富士銀行( 現 株式会社みずほ銀 行 ) 入行 株式会社新生銀行 入行 メリルリンチ日本証券株式会社 Vice President リーマン・ブラザーズ証券株式会社 Vice President スタンダードチャータード銀行 Associate Director ドイツ証券株式会社 Director エフワンインターナショナル株式会社 常務執行役員( 現任 ) 当社 取締役( 監査等委員 ) ( 現任 )	(注) 4	1,500
計						6,153,200

- (注) 1. 当社は監査等委員会設置会社であります。
2. 井出博之、高田祐史及び松橋雅之は、社外取締役であります。
3. 取締役の任期は、2022年12月22日開催の定時株主総会の終結の時から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
4. 取締役(監査等委員)の任期は、2022年12月22日開催の定時株主総会の終結の時から2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
5. 代表取締役社長 Global CEO 本田謙の所有株式数は、同氏の資産管理会社であるMOTHERS OF INVENTION PTE. LTD. が所有する株式数を含めて表示しております。
6. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。  
委員長 井出博之 委員 高田祐史 委員 松橋雅之
7. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
渡辺 英治	1969年8月21日生	2000年1月 税理士登録 2000年10月 渡辺税理士事務所設立 所長(現任) 2012年9月 株式会社イグニス 監査役 2015年12月 当社 監査役 2015年12月 株式会社イグニス 取締役(監査等委員) 2016年12月 当社 取締役(監査等委員)	-

#### 社外取締役の状況

当社は、社外取締役を3名選任しております。なお、当社と社外取締役(監査等委員)井出博之及び高田祐史との間には、人的・資本的關係、取引関係及びその他の特別な利害関係はありません。また、社外取締役(監査等委員)松橋雅之と当社との間には当社株式保有以外に記載すべき取引等の関係はなく、人的・資本的關係、取引関係及びその他の特別な利害関係はありません。

社外取締役(監査等委員)井出博之は、コンサルディングファームにおいて、企業のコンプライアンス、危機管理及び個人情報保護法等に関するリスクマネジメントについて長年にわたるコンサルティング経験を通じ、当該リスクマネジメントを中心とした企業経営に関する深い知見を有していることから、かかる経験・知識等を当社グループの経営及び監査・監督に活かすことを期待し、当社の社外取締役として適任であると判断しております。

社外取締役(監査等委員)高田祐史は、弁護士であり、法令及びコーポレート・ガバナンスに関する専門的な知識を有しており、その知識経験に基づき、議案審議等に適宜助言又は提言を行っております。

社外取締役(監査等委員)松橋雅之は、財務(コーポレートファイナンス)の分野において外資系投資銀行を中心にグローバルに活躍してきた経験を有しており、その知識経験に基づき、議案審議等に適宜助言又は提言を行っております。

また、当社では社外役員を選任するための独立性に関する基準又は方針としての特段の定めはありませんが、経歴、当社との関係等から個別に判断し、当社からの独立性を確保できる方を候補者として選任することとしております。

## (3) 【監査の状況】

## 監査等委員会監査の状況

当社における監査等委員会は、監査等委員3名（うち社外取締役3名）にて構成されており、定期的な監査等委員会の開催のほか、取締役会への出席、その他社内の重要な会議への出席、会社財産の調査及び業務の調査等を通じて取締役の業務を十分に監査できる体制となっており、不正行為又は法令もしくは定款に違反する事実の発生防止にも取り組んでおります。また、定期的に内部監査室と意見及び情報の交換を行っております。さらに監査等委員会は、会計監査人より監査結果報告を聴取し、必要に応じて監査計画、監査実施状況等について会計監査人に報告を求めるなど情報の共有を図り、監査機能の有効性・効率性を高めるための取組みを行っております。

役職名	氏名	経験等	監査等委員会の出席状況
社外取締役 常勤監査等委員	柳澤 文夫	長年の経理業務経験及び上場企業における監査役経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。なお、同氏は、常勤監査等委員であります。常勤監査等委員を選定している理由は、監査等委員会の監査・監督機能を強化し、取締役（監査等委員を除く）からの情報収集、社内の重要会議からの情報及び内部監査部門等との密な連携を図ることで得られる情報を監査等委員会にフィードバックすることにより監査の実効性向上に資するためであります。	16回中16回出席
社外取締役 監査等委員	高田 祐史	弁護士の資格を有しており、コーポレート・ガバナンス及び法務全般に関する相当程度の知見を有しております。	16回中16回出席
社外取締役 監査等委員	松橋 雅之	長年の外資系投資銀行等における豊富な経験と幅広い知識を有しており、財務（コーポレートファイナンス）の分野での相当程度の知見を有しております。	16回中16回出席

(注) 監査等委員井出博之は2022年12月22日開催の第12回定時株主総会で選任された新任の監査等委員であるため、当事業年度における出席状況は記載しておりません。

## 内部監査の状況

当社では代表取締役直轄の内部監査室（室長1名、担当者1名）を設け、内部監査を実施しております。内部監査は、「内部監査規程」に基づき、会社の業務運営が法令並びに会社の規程類を遵守して適正に行われているかを評価することを目的として実施しております。監査等委員会とも定期的に活動報告を行い、また会計監査人と監査等委員とのコミュニケーションも定期的に実施しております。

## 会計監査の状況

## a. 監査法人の名称

和泉監査法人

## b. 継続監査期間

1年間

## c. 業務を執行した公認会計士の氏名等

公認会計士の氏名等	
代表社員 業務執行社員	田中 量
代表社員 業務執行社員	石田 真也

(注) 監査継続年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

## d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士6名、その他2名



## e. 監査法人の選定方針と理由ならびに監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、「監査等委員会規程」及び「監査等委員会監査基準」に基づき、会計監査人候補者の検討に際しては、取締役及び社内関係部署から必要な資料を入手しかつ報告を受け、会計監査人の職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制を確認し、独立性や過去の業務実績等について慎重に検討するとともに、監査計画や監査体制、監査報酬水準等について会計監査人候補者と打ち合わせを行い選定を行っております。

会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査等委員全員の同意により、会計監査人の解任または不再任を株主総会の議案として決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

## f. 監査法人の異動

当社は、2021年12月23日開催の第11期定時株主総会において、次のとおり監査法人の選任を決議いたしました。

第11期（自 2020年10月1日 至 2021年9月30日） 有限責任 あずさ監査法人

第12期（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日） 和泉監査法人

## イ. 当該異動の年月日

2021年12月24日

## ロ. 退任する監査公認会計士等が監査公認会計士等となった年月日

2012年5月8日

## ハ. 退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等における意見等に関する事項

該当事項はありません。

## ニ. 当該異動の決定又は当該異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である有限責任 あずさ監査法人は、2021年12月23日開催の第11期定時株主総会終結の時をもって任期満了いたしました。当社は、2023年9月期中期経営計画最終年度に向けて、国内においては動画・Connected TV領域、海外においては北米のPlaywireを、主たる成長ドライバーとして、事業成長を果たしていく方針です。その中で、有限責任 あずさ監査法人より、当社の経営環境の変化から今後も監査工数の増加が見込まれること等を理由に、第11期定時株主総会の終結時をもって退任する旨の意向を受けました。

これを契機として、当社の事業規模に適した監査対応や監査報酬の妥当性を検討した結果、専門性ある熟練の専門家によりチーム構成されており、当社を取り巻く環境の変化に対応した、効果的かつ効率的な監査業務の運営が期待できることから、新たに和泉監査法人を会計監査人として選任するに至りました。

## ホ. 上記二. の理由及び経緯に対する意見

（退任する監査公認会計士等の意見） 特段の意見はない旨の回答を得ております。

（監査等委員会の意見） 妥当であると判断しております。

## 監査報酬の内容等

(監査公認会計士等に対する報酬の内容)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	38,000	-	42,000	1,000
連結子会社	13,500	1,000	-	-
計	51,500	1,000	42,000	1,000

(注) 1. 前連結会計年度に係る監査証明業務に基づく報酬以外に、前々連結会計年度に係る追加報酬として前連結会計年度中に支出した額が2百万円あります。

2. 当連結会計年度に係る監査証明業務に基づく報酬以外に、前連結会計年度に係る追加報酬として当連結会計年度中に支出した額が3百万円あります。

(監査公認会計士等の非監査業務の内容)

前連結会計年度

連結子会社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、新規上場に係るコンフォートレター作成業務についての対価であります。

当連結会計年度

提出会社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、収益認識に関する会計基準への対応に関する助言・指導等についての対価であります。

(監査公認会計士等と同一のネットワーク(前連結会計年度はKPMGメンバーファーム、当連結会計年度は和泉監査法人)に対する報酬(監査公認会計士等に対する報酬の内容を除く))

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	-	2,318	-	-
連結子会社	14,341	2,400	-	-
計	14,341	4,718	-	-

(監査公認会計士等と同一ネットワーク(KPMGメンバーファーム)に対する報酬)

前連結会計年度

当社が監査公認会計士等と同一ネットワーク(KPMGメンバーファーム)に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、税務関連業務等であります。

当連結会計年度

該当事項はありません。

(その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容)

該当事項はありません。

(監査報酬の決定方針)

当社グループの事業規模や特性に照らして監査計画、監査内容、監査日数を勘案し、双方協議の上で監査報酬を決定しております。

(監査等委員会が会計監査人の報酬に同意した理由)

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査等委員会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画に基づく監査報酬の算定根拠、監査計画の概要等を総合的に勘案したことによります。

## (4) 【役員の報酬等】

## 役員の報酬等

## イ. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	117,396	117,396	-	-	4
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く)	-	-	-	-	-
社外役員	19,700	19,700	-	-	3

(注) 上記の報酬とは別に、公正価値にて払込がなされる有償ストック・オプションを発行しております。

## ロ. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

## ハ. 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

## 二. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役(監査等委員である取締役を除く。)の報酬額は、2017年12月21日開催の定時株主総会において年額200,000千円以内と定められており、報酬総額の限度額の範囲内において代表取締役社長 Global CEO 本田 謙に一任しております。

また、個人別の報酬等については、2021年2月12日開催の取締役会決議に基づき、代表取締役社長 Global CEO 本田謙がその具体的な内容について委任を受けるものとし、その権限は、各取締役の職責、担当事業の業績及び当社への貢献度を踏まえた各取締役の基本報酬の額の決定を内容としております。

取締役会が、以上の権限を委任した理由は、取締役会において定めた決定方針に従い、当社グループ全体の業績を俯瞰しつつ、各取締役の役割等の評価を行うのは、代表取締役社長 Global CEO 本田謙が最も適しているかと判断したためであります。

業績連動報酬等や非金銭報酬等はなく、基本報酬(金銭報酬)のみを支給しております。

当社の取締役の基本報酬は、月例の固定報酬とし、役位、職責、当社への貢献度に応じて、当社の業績、従業員給与の水準を考慮しながら総合的に勘案して決定しております。

また、監査等委員である取締役の報酬額は、2016年12月21日開催の定時株主総会において年額30,000千円以内と定められており、監査等委員会で協議の上決定しております。

## (5) 【株式の保有状況】

## 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、取引関係の維持・強化等事業上の必要性、経済合理性等を総合的に勘案し、中長期的な企業価値の向上に繋がるか否かを判断し、該当する株式を純投資目的以外の投資株式（政策保有株式）、それ以外を純投資目的株式に区分しております。

## 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

## a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、政策保有株式について、以下の通り基本方針を定めております。

- ・当社は、政策保有株式について、金融証券取引所に上場している企業に求められる行動基準への対応や当社の財務面での健全性維持のため、保有の合理性が認められる場合を除き、原則として、政策保有株式を保有しない。
- ・保有の合理性が認められる場合とは、中長期的な視点も念頭において、保有に伴うリスクとコストと保有によるリターン等を適正に把握したうえで採算性を検証し、取引関係の維持・強化、資本・業務提携、再生支援などの保有のねらいも総合的に勘案して、当社の企業価値の向上に繋がると判断される場合を言う。
- ・政策保有株式については、定期的に保有の合理性を検証し、合理性が認められる株式は保有するが合理性がないと判断される株式は、市場に与える影響や発行体の財務戦略など、様々な事業を考慮したうえで、売却する。

## b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	6	3,171,150
非上場株式以外の株式	-	-

## (当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

## (当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

## c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

## 特定投資株式

該当事項はありません。

## みなし保有株式

該当事項はありません。

## 保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	9	787,701	7	324,901
非上場株式以外の株式	-	-	-	-

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	73,498
非上場株式以外の株式	-	-	-

(注) 非上場株式については、外貨建有価証券の為替換算差額を記載しております。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2021年10月1日から2022年9月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2021年10月1日から2022年9月30日まで)の財務諸表について、和泉監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することが出来る体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また各種研修に参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,996,667	7,287,745
受取手形及び売掛金	5,060,553	-
受取手形	-	15,121
売掛金	-	6,598,795
その他	1,456,006	1,846,099
貸倒引当金	369,637	374,808
流動資産合計	12,143,590	15,372,952
固定資産		
有形固定資産		
建物	104,346	116,882
減価償却累計額	55,335	67,586
建物(純額)	49,010	49,295
工具、器具及び備品	678,458	738,962
減価償却累計額	577,887	626,863
工具、器具及び備品(純額)	100,571	112,099
リース資産	48,333	30,303
減価償却累計額	29,548	10,708
リース資産(純額)	18,784	19,594
有形固定資産合計	168,366	180,989
無形固定資産		
のれん	981,880	1,151,380
顧客関連資産	1,064,113	1,245,956
その他	169,249	400,439
無形固定資産合計	2,215,243	2,797,776
投資その他の資産		
投資有価証券	1 5,434,410	1 5,826,358
その他	702,425	765,057
貸倒引当金	129,280	208,473
投資その他の資産合計	6,007,554	6,382,941
固定資産合計	8,391,165	9,361,708
資産合計	20,534,755	24,734,660

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	3,879,667	5,015,963
短期借入金	2,212,153	2,318,000
1年内返済予定の長期借入金	3,470,276	3,485,840
1年内償還予定の社債	-	360,000
賞与引当金	308,411	276,116
役員賞与引当金	93,187	59,330
関係会社整理損失引当金	77,003	79,729
その他	996,320	904,015
流動負債合計	8,186,020	10,728,996
<b>固定負債</b>		
社債	-	1,360,000
転換社債型新株予約権付社債	1,500,000	-
長期借入金	3,429,276	3,424,152
繰延税金負債	20,228	312,867
その他	44,689	42,727
固定負債合計	4,492,184	3,962,748
負債合計	12,678,205	14,691,744
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,548,299	3,552,049
資本剰余金	3,757,702	3,753,239
利益剰余金	210,845	1,140,892
自己株式	323,633	323,633
株主資本合計	6,771,522	8,122,547
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	19,205	87,965
為替換算調整勘定	7,035	308,117
その他の包括利益累計額合計	26,241	396,083
新株予約権	5,972	151,895
非支配株主持分	1,052,813	1,372,390
純資産合計	7,856,549	10,042,915
負債純資産合計	20,534,755	24,734,660



## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
売上高	29,499,898	28,965,063
売上原価	22,617,304	21,122,838
売上総利益	6,882,593	7,842,224
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 5,873,277	<sup>1</sup> 6,511,616
営業利益	1,009,316	1,330,608
営業外収益		
受取利息	6,019	12,264
有価証券利息	27,500	-
持分法による投資利益	-	485,359
為替差益	250,561	1,071,341
その他	51,740	50,240
営業外収益合計	335,821	1,619,206
営業外費用		
支払利息	69,827	51,956
持分法による投資損失	85,871	-
社債発行費	-	41,078
資金調達費用	35,592	74,447
雑損失	-	30,091
その他	41,454	42,316
営業外費用合計	232,746	239,890
経常利益	1,112,391	2,709,925
特別利益		
関係会社株式売却益	<sup>2</sup> 1,013,952	38,608
持分変動利益	<sup>3</sup> 287,903	19,055
その他	2,081	-
特別利益合計	1,303,937	57,663
特別損失		
固定資産除却損	<sup>4</sup> 4,330	-
投資有価証券評価損	381,001	248,978
関係会社整理損失引当金繰入額	80,704	12,738
貸倒引当金繰入額	133,963	92,017
デリバティブ損失	<sup>5</sup> 339,545	-
その他	68,327	10,389
特別損失合計	1,007,874	364,123
税金等調整前当期純利益	1,408,454	2,403,464
法人税、住民税及び事業税	495,715	392,426
法人税等調整額	21,774	187,321
法人税等合計	473,940	579,748
当期純利益	934,513	1,823,716
非支配株主に帰属する当期純利益	354,048	458,971
親会社株主に帰属する当期純利益	580,465	1,364,745

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
当期純利益	934,513	1,823,716
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,105	66,144
持分法適用会社に対する持分相当額	35,265	138,567
為替換算調整勘定	126,257	320,236
その他の包括利益合計	162,628	524,948
包括利益	1,097,142	2,348,664
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	719,582	1,741,296
非支配株主に係る包括利益	377,559	607,368

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2020年10月1日 至 2021年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,651,163	3,170,411	791,310	322,213	4,708,049
当期変動額					
新株の発行	897,136	897,136			1,794,272
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		309,844			309,844
親会社株主に帰属する当期純利益			580,465		580,465
自己株式の取得				1,420	1,420
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	897,136	587,291	580,465	1,420	2,063,472
当期末残高	3,548,299	3,757,702	210,845	323,633	6,771,522

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計			
当期首残高	17,433	130,310	112,876	3,041	1,758,492	6,356,708
当期変動額						
新株の発行						1,794,272
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						309,844
親会社株主に帰属する当期純利益						580,465
自己株式の取得						1,420
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,771	137,345	139,117	2,930	705,678	563,631
当期変動額合計	1,771	137,345	139,117	2,930	705,678	1,499,841
当期末残高	19,205	7,035	26,241	5,972	1,052,813	7,856,549

当連結会計年度（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,548,299	3,757,702	210,845	323,633	6,771,522
当期変動額					
新株の発行	3,750	3,750			7,500
持分法の適用範囲の変動			40,230		40,230
親会社株主に帰属する当期純利益			1,364,745		1,364,745
その他		8,212	27,222		19,009
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	3,750	4,462	1,351,737	-	1,351,024
当期末残高	3,552,049	3,753,239	1,140,892	323,633	8,122,547

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計			
当期首残高	19,205	7,035	26,241	5,972	1,052,813	7,856,549
当期変動額						
新株の発行						7,500
持分法の適用範囲の変動						40,230
親会社株主に帰属する当期純利益						1,364,745
その他						19,009
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	68,759	301,082	369,841	145,923	319,576	835,341
当期変動額合計	68,759	301,082	369,841	145,923	319,576	2,186,366
当期末残高	87,965	308,117	396,083	151,895	1,372,390	10,042,915

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,408,454	2,403,464
減価償却費	273,856	342,825
のれん償却額	126,437	102,563
株式報酬費用	-	145,923
賞与引当金の増減額(は減少)	133,770	82,503
役員賞与引当金の増減額(は減少)	89,785	53,133
貸倒引当金の増減額(は減少)	183,298	66,760
関係会社整理損失引当金の増減額(は減少)	37,150	6,769
受取利息	6,019	12,264
有価証券利息	27,500	-
支払利息	69,827	51,956
為替差損益(は益)	266,938	1,044,516
持分法による投資損益(は益)	85,871	485,359
持分変動損益(は益)	287,903	19,055
資金調達費用	35,592	74,447
社債発行費	-	41,078
関係会社株式売却損益(は益)	1,013,952	38,608
投資有価証券評価損益(は益)	381,001	248,978
デリバティブ損益(は益)	339,545	-
固定資産除却損	4,330	-
売上債権の増減額(は増加)	1,192,865	579,517
その他の資産の増減額(は増加)	693,864	186,851
仕入債務の増減額(は減少)	1,065,434	333,620
その他の負債の増減額(は減少)	3,003	177,133
その他	135,383	17,682
小計	2,265,423	1,517,290
利息の受取額	6,553	33,766
利息の支払額	71,107	51,940
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	298,361	621,950
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,902,507	877,166

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	124,887	68,205
有形固定資産の売却による収入	836	67
無形固定資産の取得による支出	142,828	309,347
投資有価証券の取得による支出	152,518	223,658
投資有価証券の売却による収入	-	60,577
匿名組合出資金の払戻による収入	-	6,708
貸付けによる支出	56,820	65,000
貸付金の回収による収入	270,201	26,891
敷金及び保証金の差入による支出	23,672	12,408
敷金及び保証金の回収による収入	28,847	11,514
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	2 1,112,089	-
その他	31,800	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,344,732	572,861
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	374,456	1,207,859
長期借入れによる収入	1,378,074	644,493
長期借入金の返済による支出	766,595	1,353,737
社債の発行による収入	-	1,758,921
社債の償還による支出	4,500,000	1,634,628
新株予約権の発行による収入	5,343	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	287,211	4,230
自己株式の取得による支出	1,420	-
リース債務の返済による支出	31,157	25,813
非支配株主への配当金の支払額	257,487	275,491
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	338,925	-
その他	33,288	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,632,700	325,833
現金及び現金同等物に係る換算差額	154,976	660,939
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,919,948	1,291,077
現金及び現金同等物の期首残高	9,916,616	5,996,667
現金及び現金同等物の期末残高	1 5,996,667	1 7,287,745

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

31社

主要な連結子会社の名称

FREAKOUT PTE.LTD.

PT. FreakOut dewina Indonesia

株式会社フリークアウト

adGeek Marketing Consulting Co.,Ltd.

本田商事株式会社

FreakOut China Co.,Ltd.

Playwire,LLC

その他24社

(2) 主要な非連結子会社の名称

株式会社ストアギーク

連結の範囲から除いた理由

小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数

8社

会社の名称

株式会社IRIS

株式会社インティメート・マージャー

株式会社デジタルリフト

その他5社

従来、持分法適用会社であった株式会社Zeals及びSilverpush Pte.LTD.は、保有株式の一部売却及び議決権比率の低下に伴い当社所有割合が減少したため、当連結会計年度より持分法の適用範囲から除外しております。

(2) 持分法を適用しない主要な非連結子会社及び関連会社の名称等

(非連結子会社)

株式会社ストアギーク

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続きについて特に記載すべき事項

決算期の異なる持分法適用会社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

決算期の異なる子会社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

## 4 会計方針に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

## 有価証券

その他有価証券（営業投資有価証券（流動資産「その他」）を含む）

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算出）を採用しております。

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業組合への出資持分については、組合の直近の決算報告書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、建物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～18年

工具、器具及び備品 4～15年

無形固定資産

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法によっております。

顧客関連資産

対価の算定根拠となった将来の収益獲得期間（13年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

役員賞与引当金

連結子会社の役員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

関係会社整理損失引当金

関係会社の整理に伴う損失に備えるため、将来の損失見込額を計上しております。



(4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループの展開する事業における、顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常時点（収益を認識する通常の時点）、並びに、顧客との契約から生じる収益以外の収益の計上基準は、以下のとおりであります。

顧客との契約から生じる収益

イ 広告・マーケティング事業

広告・マーケティング事業では、主に顧客からの依頼に基づいてメディアへの広告の配信を行う履行義務を負っており、メディアに広告配信が行われた時点で、当社の履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。

なお、上記のうち、当社及び連結子会社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する役務と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額、あるいは手数料の金額を収益として認識しております。

上記取引の対価はいずれも履行義務充足後、別途定める支払条件により、概ね1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

ロ その他事業

その他事業では、主にグループ会社等に対して総務・人事・財務経理・情報システム管理に関する業務の一部を提供しており、当該サービスから生じる履行義務は、一定期間にわたり履行義務を充足する取引であり、履行義務の進捗度に応じて収益を認識しております。

顧客との契約から生じる収益以外の収益

投資事業では、主にITベンチャー企業を主たる投資対象として、投資リターンによる企業価値の向上を図るための事業を行っており、保有する株式等について、譲渡時点で収益を計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、5～14年間で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

随時引き出し可能な預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

連結納税制度の適用

当社及び一部の国内連結子会社は、連結納税制度を適用しております。

連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社及び一部の国内連結子会社は、翌連結会計年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行することとなります。ただし、「所得税法等の一部を改正する法律」（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

なお、翌連結会計年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号2021年8月12日）を適用する予定であります。

重要な繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

## (重要な会計上の見積り)

## 非上場株式等に係る評価

## 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

勘定科目	前連結会計年度	当連結会計年度
営業投資有価証券	667,119千円	868,462千円
投資有価証券	4,752,606千円	5,052,914千円

投資有価証券には、株式会社カムムに対する投資3,137,274千円が含まれております。

営業投資有価証券は、流動資産の「その他」に含まれております。

## 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、株式会社カムムを含む非上場企業に対して投資先企業の将来成長による超過収益力を見込んで、1株当たりの純資産額を基礎とした金額に比べ相当程度高い価額で投資を行っております。当該非上場株式は、取得原価をもって貸借対照表価額としていますが、超過収益力を見込めなくなり、これらを反映した実質価額が取得原価に比べて著しく低下した場合は、減損処理を行います。

超過収益力が毀損した場合、実質価額が減額されるため、非上場株式等の評価に当たっては、投資時の事業計画の達成状況の分析、KPIの推移の確認、第三者が行ったファイナンスの状況の確認等を総合的に勘案することにより、超過収益力の毀損の有無を評価しています。

実質価額が取得原価に比べて著しく低下した場合には、減損処理の実施により、翌連結会計年度の連結財務諸表に影響を及ぼす可能性があります。

## (会計方針の変更)

## (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首より適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で売上高を認識することとしております。

これにより、広告業の一部の収益について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割(本人又は代理人)を判断し、当社グループの役割が代理人に該当すると判断される取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額を収益として認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当連結会計年度の期首までの累積的影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

また、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当連結会計年度より「受取手形」及び「売掛金」に含めて表示しております。ただし、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

## (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載しておりません。

## (表示方法の変更)

## (連結貸借対照表)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動資産」の「未収入金」、「営業投資有価証券」、「投資その他の資産」の「長期貸付金」、「敷金及び保証金」、「繰延税金資産」、「流動負債」の「未払金」、「リース債務」、「未払法人税等」、「未払消費税等」及び「固定負債」の「リース債務」、「資産除去債務」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において「流動資産」の「未収入金」に表示していた159,528千円、「営業投資有価証券」に表示していた667,119千円、「投資その他の資産」の「長期貸付金」に表示していた182,525千円、「敷金及び保証金」に表示していた236,765千円、「繰延税金資産」に表示していた5,226千円、「流動負債」の「未払金」に表示していた370,486千円、「リース債務」に表示していた18,657千円、「未払法人税等」に表示していた238,344千円、「未払消費税等」に表示していた87,811千円及び「固定負債」の「リース債務」に表示していた6,578千円、「資産除去債務」に表示していた38,111千円は、「その他」として組み替えております。

## (連結損益計算書)

当連結会計年度より、「販売費及び一般管理費」は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結損益計算書関係)」に記載しております。なお、前連結会計年度において、独立掲記しておりました「貸倒引当金繰入額」、「不動産賃借料」は金額的重要性が乏しくなったため記載を省略しており、前連結会計年度において、「その他」に含まれておりました、「システム利用料」は金額的重要性が増したため独立掲記しております。

また、「営業外費用」の「投資事業組合運用損」及び「特別損失」の「減損損失」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「投資事業組合運用損」に表示していた10,347千円及び「特別損失」の「減損損失」に表示していた57,746千円は、「その他」として組み替えております。

## (連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「投資事業組合運用損益(は益)」、「減損損失」、「未収入金の増減額(は増加)」、「営業投資有価証券の増減額(は増加)」及び「未払金の増減額(は減少)」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」、「その他資産の増減額(は増加)」及び「その他の負債の増減額(は減少)」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「投資事業組合運用損益(は益)」に表示していた10,347千円、「減損損失」に表示していた57,746千円は、「その他」、「未収入金の増減額(は増加)」に表示していた319,299千円、「営業投資有価証券の増減額(は増加)」に表示していた327,332千円は、「その他の資産の増減(は増加)」及び「未払金の増減(は減少)」として表示していた31,100千円は、「その他の負債の増減(は減少)」として組み替えております。

## (連結貸借対照表関係)

## 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
投資有価証券(株式)	2,105,508千円	1,931,601千円

## 2 当座貸越契約及びコミットメントライン契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、主要取引金融機関と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	2,600,000千円	3,650,000千円
借入実行残高	1,692,700千円	2,980,000千円
差引額	907,300千円	670,000千円

## 3 シンジケートローン契約

当社の連結子会社である株式会社FOPWは、既存の金融機関からの借入金のリファイナンスを行う目的として、みずほ銀行をアレンジャーとしたシンジケートローン契約を締結しております。なお、本契約には一定の財務制限条項が付されており、これらに抵触した場合、期限の利益を喪失し、一括返済を求められる等、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

財務制限条項の主な内容は以下のとおりであります。

2019年9月末日に終了する本決算期及びそれ以降の各本決算期における当社の連結ベースでの経常利益及び当期利益がいずれも、2期連続赤字とならないこと。また、2019年12月末日に終了する各簡易連結対象期間(注1)及びそれ以降の各簡易連結対象期間における株式会社FOPWの簡易連結ベースでの経常利益及び当期利益がいずれも、2期連続赤字とならないこと。

2019年9月末日に終了する本決算期及びそれ以降の各本決算期における当社の連結ベースの貸借対照表上の純資産勘定を、前本決算期における当社の連結ベースの貸借対照表上の純資産勘定の数値の75%以上の数値とすること。2019年12月末日に終了する簡易連結対象期間及びそれ以降の各簡易連結対象期間における株式会社FOPWの簡易連結ベースの貸借対照表上の純資産勘定を、それぞれ前簡易連結対象期間末日における株式会社FOPWの簡易連結ベースの貸借対照表上の純資産勘定の数値の75%以上の数値とすること。

2019年12月末日に終了する簡易連結対象期間及びそれ以降の各簡易連結対象期間(直近12ヶ月)における株式会社FOPWの簡易連結ベースでのグロス・レバレッジ・レシオ(注2)を、各簡易連結対象期間末に2.30~3.65以下に維持すること。

2019年12月末日に終了する簡易連結対象期間及びそれ以降の各簡易連結対象期間(直近12ヶ月)における株式会社FOPWの簡易連結ベースのデット・サービス・カバレッジ・レシオ(注3)を1.05以上に維持すること。

(注1)簡易連結対象期間 : 9月決算である株式会社FOPWと、12月決算である米国SPC及び対象会社を含む株式会社FOPWの連結子会社の簡易連結財務諸表を作成する際の対象期間

(注2)グロス・レバレッジ・レシオ : 有利子負債残高/EBITDA

(注3)デット・サービス・カバレッジ・レシオ : フリー・キャッシュ・フロー/デット・サービス  
(本貸付の元本約定返済額+本貸付の支払利息)

## 4 担保に供している資産及び担保に係る債務

## 担保に供している資産

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
子会社株式(注)	1,010,000千円	1,010,000千円
(注)子会社株式については連結財務諸表上、相殺消去しております。		

## 担保に係る債務

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
1年内返済予定の長期借入金	250,000千円	250,000千円
長期借入金	1,225,000千円	975,000千円

## 5 保証債務

以下の会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
株式会社カンム	-千円	900,000千円

(連結損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
給与及び手当	2,174,235千円	2,575,867千円
賞与引当金繰入額	395,856千円	511,460千円
役員賞与引当金繰入額	162,142千円	142,382千円
のれん償却額	126,437千円	102,563千円
株式報酬費用	-千円	145,923千円
システム利用料	386,555千円	692,189千円

## 2 関係会社株式売却益の内容は、次のとおりであります。

主に、当社の連結子会社であった株式会社インティメート・マージャーと株式会社デジタルフトの株式の売却益それぞれ654,046千円と316,573千円を計上したものです。

## 3 持分変動利益の内容は、次のとおりであります。

当社の持分法適用関連会社が、第三者割当増資を実施したことによるものです。

## 4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
工具、器具及び備品	4,330千円	-千円

## 5 デリバティブ損失の内容は、次のとおりであります。

株式会社インティメート・マージャー株式の譲渡に伴う、同株式を対象とした株価変動に係るデリバティブ契約(株価連動取引契約)に基づいて発生した損失額であります。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	1,105	91,552
組替調整額	-	-
税効果調整前	1,105	91,552
税効果額	-	25,408
その他有価証券評価差額金	1,105	66,144
為替換算調整勘定		
当期発生額	126,257	320,236
組替調整額	-	-
税効果調整前	126,257	320,236
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	126,257	320,236
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	35,265	138,567
組替調整額	-	-
持分法適用会社に対する持分相当額	35,265	138,567
その他の包括利益合計	162,628	524,948

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	16,660,700	1,354,724	-	18,015,424

(変動事由の概要)

普通株式の増加数の内訳は、次のとおりであります。

新株予約権の行使による新株発行

1,354,724株

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	144,340	844	-	145,184

(変動事由の概要)

自己株式の増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加

844株

## 3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	5,972
	第8回・第9回新株予約権	普通株式	600,000	-	600,000	-	-
	第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権	普通株式	1,117,734	-	1,117,734	-	-
	第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権	普通株式	957,854	-	-	957,854	-
	第10回新株予約権	普通株式	221,400	-	221,400	-	-
合計			2,896,988	-	1,939,134	957,854	5,972

(注) 1. 転換社債型新株予約権付社債については、一括法によっております。

2. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載してあります。

(変動事由の概要)

第8回・第9回新株予約権の行使期間満了による減少

600,000株

第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使及び失効による減少

1,117,734株

第10回新株予約権の行使による減少

221,400株

## 4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	18,015,424	7,500	-	18,022,924

（変動事由の概要）

普通株式の増加数の内訳は、次のとおりであります。

新株予約権の行使による新株発行

7,500株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	145,184	-	-	145,184

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数（株）				当連結会計年度末残高（千円）
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	151,895
	第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権	普通株式	957,854	-	957,854	-	-
合計			957,854	-	957,854	-	151,895

（注）1．転換社債型新株予約権付社債については、一括法によっております。

2．目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載してあります。

（変動事由の概要）

第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の期限前買取り及び消却による減少

957,854株

4 配当に関する事項

該当事項はありません。



(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金	5,996,667千円	7,287,745千円
現金及び現金同等物	5,996,667千円	7,287,745千円

- 2 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

株式の売却により株式会社インティメート・マージャー、PT. Game Teknologi Cahaya Gemilang及び株式会社デジタルフト(以下、「売却済連結子会社」という)が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに売却済連結子会社株式の売却価額と売却による支出(純額)は次のとおりであります。

流動資産	3,064,758千円
固定資産	147,640 "
流動負債	1,065,462 "
固定負債	180,622 "
為替換算調整勘定	790,806 "
非支配株主持分	911,120 "
株式の売却損益(は損)	970,747 "
売却済連結子会社株式の売却価額	1,235,135 "
現金及び現金同等物	2,347,225 "
差引:売却による支出	1,112,089 "

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

該当事項はありません。

- 3 重要な非資金取引の内容

転換社債型新株予約権付社債における新株予約権の行使

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
新株予約権の行使による資本金増加額	750,000千円	-千円
新株予約権の行使による資本準備金増加額	750,000 "	- "
新株予約権の行使による新株予約権付社債減少額	1,500,000 "	- "

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引等

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引及びIFRS第16号適用子会社における使用权資産  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
1年内	150,868千円	150,868千円
1年超	163,441千円	12,572千円
合計	314,310千円	163,441千円

(注) 定期建物賃貸借契約における契約期間内の地代家賃を記載しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、預金等の安全性の高い金融資産で運用しております。運転資金及び設備投資資金に関しては、主に銀行借入、新株発行及び社債発行により必要な資金を調達する方針であります。当社グループは、投資リターンによる企業価値の向上を図るための投資事業を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。営業投資有価証券(流動資産「その他」)及び投資有価証券は、取引先企業との業務または資本提携等に関連する株式等であり、発行体の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は1年以内の支払期日であります。また、営業債務である買掛金は支払期日に支払を実行できなくなる流動性リスクに晒されております。

借入金及び社債は、連結子会社の運転資金の調達及び資本・業務提携への充当を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権について、与信管理規程に基づき、取引先の状況を定期的に確認し、取引相手先ごとに財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

営業投資有価証券(流動資産「その他」)及び投資有価証券については、定期的に発行体(取引先企業)の財務状況等を把握する等の方法によりリスクの軽減を図っております。

営業債務については、月次単位での支払予定を把握する等の方法によりリスクの軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスクの管理

当社は、各部署からの報告に基づき経営管理部が毎月資金繰計画を作成、日々更新することにより、流動性のリスクを管理しております。連結子会社についても、当社に準じて、同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2021年9月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 受取手形及び売掛金	5,060,553	-	-
(2) 未収入金	159,528	-	-
貸倒引当金(2)	125,863	-	-
	5,094,218	5,094,218	-
(3) 投資有価証券(3)	681,804	3,326,006	2,644,202
資産計	5,776,022	8,420,225	2,644,202
(1) 買掛金	3,879,667	3,879,667	-
(2) 未払金	370,486	370,486	-
(3) 短期借入金	2,128,153	2,128,153	-
(4) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金含む)	3,630,543	3,619,376	11,166
負債計	10,008,851	9,997,685	11,166

(1) 「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(2) 「受取手形及び売掛金」、「未収入金」に係る貸倒引当金を控除しております。

(3) 「投資有価証券」には、持分法適用の上場関連会社株式を含めており、差額は当該株式の時価評価によるものであります。

(4) 以下の金融商品は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表に含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2021年9月30日)
営業投資有価証券	667,119
非上場株式等	667,119
投資有価証券	4,752,606
非上場株式等	4,645,055
投資事業組合への出資持分	107,550
敷金及び保証金	236,765
転換社債型新株予約権付社債 (1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債含む)	1,500,000

営業投資有価証券は、流動資産の「その他」に含まれております。

## 当連結会計年度(2022年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券	773,444	2,093,360	1,319,915
資産計	773,444	2,093,360	1,319,915
(1) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金含む)	3,100,993	3,082,323	18,670
(2) 社債 (1年内償還予定の社債含む)	1,720,000	1,718,004	1,995
負債計	4,820,993	4,800,327	20,665

- (1) 「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- (2) 「受取手形」、「売掛金」、「買掛金」及び「短期借入金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- (3) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位:千円)

区分	当連結会計年度 (2022年9月30日)
営業投資有価証券	868,462
非上場株式等	868,462
投資有価証券	5,052,914
非上場株式等	4,770,196
投資事業組合への出資持分	282,717

営業投資有価証券は、流動資産の「その他」に含まれております。

(注1) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2021年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	5,996,667	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,060,553	-	-	-
未収入金	159,528	-	-	-
合計	11,216,750	-	-	-

## 当連結会計年度(2022年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	7,287,745	-	-	-
受取手形	15,121	-	-	-
売掛金	6,598,795	-	-	-
合計	13,901,661	-	-	-

(注2) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)、転換社債型新株予約権付社債及び社債(1年内償還予定の社債含む)の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2021年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金含む)	703,276	751,670	1,411,760	282,379	97,996	383,462
転換社債型新株予約権付社債	-	1,500,000	-	-	-	-
合計	703,276	2,251,670	1,411,760	282,379	97,996	383,462

## 当連結会計年度(2022年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金含む)	853,840	1,519,764	245,930	97,996	95,748	287,714
社債 (1年内償還予定の社債含む)	360,000	360,000	360,000	360,000	280,000	-
合計	1,213,840	1,879,764	605,930	457,996	375,748	287,714

3 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2022年9月30日）

該当事項はありません。

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当連結会計年度（2022年9月30日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	2,093,360	-	-	2,093,360
資産計	2,093,360	-	-	2,093,360
長期借入金 （1年内返済予定の長期借入金含む）	-	3,082,323	-	3,082,323
社債 （1年内償還予定の社債含む）	-	1,718,004	-	1,718,004
負債計	-	4,800,327	-	4,800,327

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

(1) 投資有価証券

投資有価証券のうち上場株式については相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

(2) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）

これらの時価は、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(3) 社債（1年内償還予定の社債含む）

当社の発行する社債の時価は、元利金の合計額と、当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券(営業投資有価証券(流動資産「その他」)含む)

前連結会計年度(2021年9月30日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	343,018	322,422	20,595
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	343,018	322,422	20,595
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	3,545,451	3,545,451	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	107,550	136,040	28,489
	小計	3,653,002	3,681,491	28,489
	合計	3,996,020	4,003,914	7,894

(注) 表中の取得原価は減損処理後の帳簿価額であります。

当連結会計年度(2022年9月30日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	964,989	864,339	100,649
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	144,810	135,330	9,480
	小計	1,109,799	999,669	110,129
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	3,524,447	3,524,447	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	128,972	156,040	27,067
	小計	3,653,420	3,680,487	27,067
	合計	4,763,219	4,680,157	83,061

(注) 表中の取得原価は減損処理後の帳簿価額であります。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
営業投資有価証券（流動資産「その他」）	480,096	480,096	-
合計	480,096	480,096	-

当連結会計年度（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
投資有価証券	16,605	38,608	-
合計	16,605	38,608	-

3．保有目的を変更した有価証券

当連結会計年度において、従来持分法適用会社として保有していた株式2銘柄について、一部売却及び議決権比率が低下したことにより、当社グループの所有割合が減少したため、保有目的を関連会社株式からその他有価証券（連結貸借対照表計上額：838,353千円）に変更しております。

4．減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券について747,626千円（関係会社株式4,667千円、その他有価証券742,958千円）の減損処理を行っております。

当連結会計年度において、有価証券について563,070千円（その他有価証券563,070千円）の減損処理を行っております。



(ストック・オプション等関係)

## 1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	-	145,923

## 2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

当連結会計年度(2022年9月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

なお、提出会社につきましては、2016年9月1日に普通株式1株を2株に株式分割を行っております。

## (1) スtock・オプションの内容

決議年月日	2014年3月27日取締役会 第6回新株予約権	2020年11月17日取締役会 第11回新株予約権	2021年6月3日取締役会 第12回新株予約権
付与対象者の区分 及び人数	当社従業員 24名 当社子会社従業員 2名	当社取締役 3名 当社従業員 12名 当社子会社従業員 9名	当社従業員 1名
株式の種類及び付 与数(注)2	普通株式 145,600株	普通株式 912,000株	普通株式 25,000株
付与日	2014年3月27日	2020年12月25日	2021年6月21日
権利確定条件	「第4提出会社の状況1株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	「第4提出会社の状況1株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	「第4提出会社の状況1株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。
対象勤務期間	自 2014年3月27日 至 2016年3月27日	自 2020年12月25日 至 2023年12月31日	自 2021年6月21日 至 2023年12月31日
権利行使期間	自 2016年3月28日 至 2024年3月27日	自 2024年1月1日 至 2028年12月24日	自 2024年1月1日 至 2028年12月24日

(注)1. 付与対象者の区分については、割当日現在の区分を記載しております。

2. 株式数に換算しております。

## (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

## ストック・オプションの数

	第6回	第11回	第12回
権利確定前(株)			
前連結会計年度末	-	912,000	25,000
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	-	-
未確定残	-	912,000	25,000
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	35,500	-	-
権利確定	-	-	-
権利行使	7,500	-	-
失効	28,000	-	-
未行使残	-	-	-

## 単価情報

	第6回	第11回	第12回
決議年月日	2014年3月27日	2020年11月17日	2021年6月3日
権利行使価格(円)	1,000	941	1,605
行使時平均株価(円)	1,552	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	-	517	1,002

## 3. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

業績条件の達成見込みに基づき、権利不確定による失効数を見積る方法を採用しております。

## 4. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

## (1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額

- 千円

## (2) 当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

4,140千円

(追加情報)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 2018年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

#### 1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

##### (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の内容

	2017年1月16日取締役会 第7回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 1名 当社従業員 3名 当社子会社取締役 2名 当社子会社従業員 1名
株式の種類及び付与数(注)2	普通株式 700,000株
付与日	2017年1月31日
権利確定条件	「第4提出会社の状況1株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。
対象勤務期間	自 2017年1月31日 至 2017年12月31日
権利行使期間	自 2018年1月1日 至 2025年3月31日

(注)1. 付与対象者の区分については、割当日現在の区分を記載しております。

2. 株式数に換算しております。

##### (2) 権利確定条件付き有償新株予約権の規模及びその変動状況

当連結会計年度(2022年9月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

##### ストック・オプションの数

	2017年1月16日取締役会 第7回新株予約権
権利確定前(株)	
前連結会計年度末	180,000
付与	-
失効・消却	-
権利確定	-
未確定残	180,000
権利確定後(株)	
前連結会計年度末	70,000
権利確定	-
権利行使	-
失効・消却	-
未行使残	70,000

## 単価情報

権利行使価格(円)	3,275
行使時平均株価(円)	-

## 2. 採用している会計処理の概要

## (権利確定日以前の会計処理)

(1) 権利確定条件付き有償新株予約権の付与に伴う従業員等からの払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上する。

(2) 新株予約権として計上した払込金額は、権利不確定による失効に対応する部分を利益として計上する。

## (権利確定日後の会計処理)

(3) 権利確定条件付き有償新株予約権が権利行使され、これに対して新株を発行した場合、新株予約権として計上した額のうち、当該権利行使に対応する部分を払込資本に振り替える。

(4) 権利不行使による失効が生じた場合、新株予約権として計上した額のうち、当該失効に対応する部分を利益として計上する。この会計処理は、当該失効が確定した期に行う。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
繰延税金資産		
未払事業税	9,833千円	16,398千円
資産除去債務	11,671 "	551 "
税務上の繰越欠損金(注)2	532,786 "	559,642 "
投資有価証券評価損	392,539 "	519,622 "
貸倒引当金	52,097 "	64,717 "
賞与引当金	92,742 "	89,718 "
役員賞与引当金	19,569 "	15,037 "
株式報酬費用	- "	44,688 "
その他	11,643 "	56,145 "
繰延税金資産小計	1,122,883千円	1,366,522千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	532,786 "	554,636 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	584,870 "	766,747 "
評価性引当額小計(注)1	1,117,657 "	1,321,383 "
繰延税金資産合計	5,226千円	45,139千円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	6,582千円	-千円
その他有価証券評価差額金	- "	25,408 "
在外子会社為替差損益	6,478 "	196,217 "
海外子会社留保利益	- "	81,647 "
その他	7,168 "	37,811 "
繰延税金負債合計	20,228千円	341,084千円
繰延税金資産純額	15,001千円	295,945千円

(注)1. 評価性引当額が203,725千円増加しております。この増加の主な内容は、税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額21,849千円、投資有価証券評価損に係る評価性引当額127,082千円、貸倒引当金に係る評価性引当額12,620千円を追加的に認識したことに伴うものであります。

## 2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2021年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金(a)	7,711	6,968	8,844	16,626	27,128	465,507	532,786
評価性引当額	7,711	6,968	8,844	16,626	27,128	465,507	532,786
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2022年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金(a)	14,410	14,876	20,622	11,663	22,063	476,005	559,642
評価性引当額	14,410	14,876	20,622	11,663	22,063	470,999	554,636
繰延税金資産	-	-	-	-	-	5,006	5,006

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
法定実効税率	30.6 %	30.6 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1 "	0.9 "
住民税均等割	0.1 "	0.1 "
評価性引当額の増減	4.9 "	8.5 "
連結子会社の税率差異	4.5 "	6.0 "
のれん償却額	2.8 "	1.3 "
持分法損益	1.9 "	6.2 "
連結調整項目	3.9 "	4.0 "
その他	1.7 "	1.2 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.7 "	24.1 "

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

当社及び連結子会社オフィスの不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

当社及び連結子会社オフィスに係る資産除去債務においては、使用見込期間を取得から8年～15年と見積り、割引率は0.017%～1.046%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
期首残高	40,717千円	38,111千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	17,327 "	- "
時の経過による調整額	275 "	220 "
資産除去債務の履行による減少額	13,908 "	- "
その他増減額(は減少)	6,300 "	- "
期末残高	38,111千円	38,331千円

## (収益認識関係)

## (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	広告・マーケティング事業	投資事業	その他事業	
アメリカ	15,666,240	-	-	15,666,240
日本	7,843,254	1,003	87,750	7,923,007
台湾	3,989,705	-	-	3,989,705
その他	1,377,109	-	-	1,377,109
顧客との契約から生じる収益	28,876,310	1,003	87,750	28,965,063
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上	28,876,310	1,003	87,750	28,965,063

## (2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

4 会計方針に関する事項(4)重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

## (3) 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

## イ. 契約資産及び契約負債の残高等

該当事項はありません。

## ロ. 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

## (1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

## (2) 各報告セグメントに属する製品及びサービス

「広告・マーケティング事業」では、モバイルマーケティングプラットフォーム「Red」、プレミアム媒体を対象とした広告プラットフォーム「Scarlet」及びネイティブアドプラットフォーム「Poets」の提供を行っております。

「投資事業」では、グローバル展開のポテンシャルを有する製品/ソリューションを開発するITベンチャー企業を主たる投資対象として、投資リターンによる企業価値の向上を図るための事業を行っております。

「その他事業」では、国内外のグループにおける経営管理機能等の提供を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法です。

報告セグメントの利益又は損失( )は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	連結財務 諸表計上額 (注2)
	広告・マーケティング事業	投資事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,916,810	521,794	61,293	29,499,898	-	29,499,898
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	1,189,759	1,189,759	1,189,759	-
計	28,916,810	521,794	1,251,053	30,689,658	1,189,759	29,499,898
セグメント利益	1,416,883	147,176	266,583	1,830,643	821,327	1,009,316
セグメント資産	13,434,809	915,968	8,691,867	23,042,644	2,507,889	20,534,755
その他の項目						
減価償却費	263,362	-	10,494	273,856	-	273,856
減損損失	27,624	-	30,122	57,746	-	57,746
のれんの償却額	126,437	-	-	126,437	-	126,437
持分法適用会社への 投資額	1,115,808	187,623	802,077	2,105,508	-	2,105,508
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	230,737	-	61,252	291,989	-	291,989

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額はセグメント間取引の消去であります。

(2) セグメント資産の調整額はセグメント間取引の消去であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。



当連結会計年度（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注1)	連結財務 諸表計上額 (注2)
	広告・マーケ ティング事業	投資事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,876,310	1,003	87,750	28,965,063	-	28,965,063
セグメント間の内部 売上高又は振替高	53,581	-	1,468,446	1,522,027	1,522,027	-
計	28,929,891	1,003	1,556,196	30,487,091	1,522,027	28,965,063
セグメント利益又は損 失( )	2,261,003	325,132	313,276	2,249,148	918,539	1,330,608
セグメント資産	17,127,128	1,381,418	8,575,381	27,083,928	2,349,267	24,734,660
その他の項目						
減価償却費	331,725	-	11,099	342,825	-	342,825
減損損失	-	-	7,749	7,749	-	7,749
のれんの償却額	102,563	-	-	102,563	-	102,563
持分法適用会社への 投資額	1,215,263	165,134	533,876	1,914,274	-	1,914,274
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	392,067	-	8,443	400,511	-	400,511

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失( )の調整額はセグメント間取引の消去であります。

(2) セグメント資産の調整額はセグメント間取引の消去であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2020年10月 1日 至 2021年 9月30日）

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	アメリカ	台湾	その他	合計
13,407,793	11,202,534	3,605,783	1,283,786	29,499,898

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	アメリカ	台湾	その他	合計
130,379	15,411	16,434	6,142	168,366

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2021年10月 1日 至 2022年 9月30日）

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	アメリカ	台湾	その他	合計
7,932,007	15,666,240	3,989,705	1,377,109	28,965,063

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	アメリカ	台湾	その他	合計
128,420	20,868	23,523	8,176	180,989

（表示方法の変更）

前連結会計年度において、「その他」に含めていた「アメリカ」の有形固定資産は、重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記することとしております。

この結果、前連結会計年度の「その他」に表示していた21,553千円は、「アメリカ」15,411千円、「その他」6,142千円に組替えております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%を占める相手がないため、記載はありません。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	広告・マーケティング事業	投資事業	その他事業	計		
当期末残高	981,880	-	-	981,880	-	981,880

(注) のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	広告・マーケティング事業	投資事業	その他事業	計		
当期末残高	1,151,380	-	-	1,151,380	-	1,151,380

(注) のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

## 1. 関連当事者との取引

前連結会計年度（自 2020年10月1日 至 2021年9月30日）

## (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

## (ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	株式会社 IRIS	東京都 港区	10,000	広告業	(所有) 直接 49.0	資金の援助	資金の回収 (注)1	250,000	短期貸付金	-
							利息の受取 (注)1	205	流動資産 「その他」 (未収利息)	-

(注) 資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等  
該当事項はありません。

## (2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

## (ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）

## (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

## (ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等  
該当事項はありません。

## (2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

## (ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	株式会社 IRIS	東京都 港区	10,000	広告業	(所有) 直接 49.0	商品の仕入	商品の仕入	4,945,490	買掛金	510,154

(注) 商品の仕入については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等  
該当事項はありません。

## ( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり純資産額	380.40円	476.49円
1株当たり当期純利益	34.51円	76.34円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	31.95円	72.46円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	580,465	1,364,745
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	580,465	1,364,745
普通株式の期中平均株式数(株)	16,821,875	17,876,404
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	842	2,114
普通株式増加数(株)	1,318,159	927,681
(うち新株予約権(株))	360,305	198,138
(うち転換社債型新株予約権付社債(株))	957,854	729,543
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
当社	ソフトマングトリー条項付 第3回無担保転換社債型新 株予約権付社債 (注)2.3	2020年 7月6日	1,500,000	-	0.0	無担保社債	2023年 7月6日
当社	第1回無担保社債	2022年 3月25日	-	720,000 (160,000)	0.36	無担保社債	2027年 3月25日
当社	第2回無担保社債	2022年 5月25日	-	300,000 (60,000)	0.36	無担保社債	2027年 5月25日
当社	第3回無担保社債	2022年 6月30日	-	700,000 (140,000)	0.34	無担保社債	2027年 6月30日
合計			1,500,000 (-)	1,720,000 (360,000)	-	-	-

(注)1.( )内書は、1年以内の償還予定額であります。

## 2. 転換社債型新株予約権付社債の内容

銘柄	第3回
発行すべき株式の内容	当社 普通株式
新株予約権の発行価額	無償
株式の発行価格(円)	1,566
発行価額の総額(千円)	1,500,000
新株予約権の行使により発行した株式 の発行価額の総額(千円)	-
新株予約権の付与割合(%)	100
新株予約権の行使期間	2020年10月6日～ 2023年7月4日
代用払込みに関する事項	新株予約権の行使に際して出資される財産の内容は、当該 新株予約権に係る本社債を出資するものとします。

3. 当社は、2022年6月15日開催の取締役会における決議に基づき、2020年7月6日に発行した上記第3回無担保転換社債型新株予約権付社債(転換社債型新株予約権付社債間限定同順位特約付)の未償還残高の全額を、2022年7月6日に買取り、消却しております。

## 4. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
360,000	360,000	360,000	360,000	280,000

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,128,153	3,180,000	0.8	-
1年以内に返済予定の長期借入金	703,276	853,840	0.7	-
1年以内に返済予定のリース債務	18,657	20,344	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,927,267	2,247,152	0.7	2023年10月～ 2030年11月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	6,578	4,395	-	2023年10月～ 2025年12月
合計	5,783,932	6,305,733	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,519,764	245,930	97,996	95,748
リース債務	20,344	1,953	1,953	488

## 【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	8,285,431	14,487,418	21,549,383	28,965,063
税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)	973,213	1,416,875	2,007,734	2,403,464
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	590,547	930,400	1,214,656	1,364,745
1株当たり四半期純利益 (円)	33.04	52.05	67.95	76.34

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	33.04	19.01	15.90	8.40

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,987,740	2,245,621
短期貸付金	1 1,514,945	1 2,149,238
未収入金	1 345,654	1 458,016
営業投資有価証券	324,901	787,701
その他	1 84,581	1 125,984
貸倒引当金	353,853	1,120,130
流動資産合計	3,903,970	4,646,431
固定資産		
有形固定資産		
建物	0	0
工具、器具及び備品	0	0
リース資産	0	0
有形固定資産合計	0	0
無形固定資産		
ソフトウェア	0	0
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産		
投資有価証券	3,328,100	3,300,123
関係会社株式	2 2,218,613	2 1,975,846
敷金及び保証金	189,987	189,987
長期貸付金	1 1,909,197	1 1,389,212
その他	1 51,589	3,246
貸倒引当金	587,453	594,238
投資その他の資産合計	7,110,035	6,264,176
固定資産合計	7,110,035	6,264,177
資産合計	11,014,005	10,910,608



(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
短期借入金	1,412,000,000	1,425,800,000
1年内返済予定の長期借入金	1,609,537	537,520
1年内償還予定の社債	-	360,000
リース債務	2,640	2,182
未払金	170,535	1,167,847
未払費用	15,144	1,105,598
未払法人税等	201,176	1,900
未払消費税等	16,350	10,954
預り金	8,079	12,850
賞与引当金	21,708	21,067
関係会社整理損失引当金	15,404	15,404
その他	1165	-
流動負債合計	2,150,743	3,720,326
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,160,267	1,165,547
社債	-	1,360,000
転換社債型新株予約権付社債	1,500,000	-
リース債務	6,578	4,395
資産除去債務	38,111	38,331
繰延税金負債	6,451	25,408
固定負債合計	3,153,408	2,593,682
負債合計	5,304,152	6,314,009
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,548,299	3,552,049
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	2,728,299	2,732,049
その他資本剰余金	800,000	800,000
資本剰余金合計	3,528,299	3,532,049
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
繰越利益剰余金	1,047,538	2,374,193
利益剰余金合計	1,047,538	2,374,193
自己株式	323,633	323,633
株主資本合計	5,705,425	4,386,271
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	1,544	58,433
評価・換算差額等合計	1,544	58,433
新株予約権	5,972	151,895
純資産合計	5,709,853	4,596,599
負債純資産合計	11,014,005	10,910,608

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
売上高	1 938,668	1 653,769
売上原価	1 6,036	329
売上総利益	932,632	653,440
販売費及び一般管理費	1, 2 860,316	1, 2 1,140,010
営業利益又は営業損失( )	72,315	486,569
営業外収益		
受取利息	1 54,902	1 12,004
有価証券利息	27,500	-
投資事業組合運用益	-	6,456
為替差益	37,433	110,419
その他	1 4,634	1 1,153
営業外収益合計	124,470	130,034
営業外費用		
支払利息	1 36,258	1 31,858
社債利息	-	2,478
社債発行費	-	41,078
投資事業組合運用損	10,347	35,310
資金調達費用	14,154	73,447
雑損失	-	1 30,091
その他	7,028	1 3,930
営業外費用合計	67,789	218,195
経常利益又は経常損失( )	128,997	574,730
特別利益		
関係会社株式売却益	3 1,164,349	3 14,175
その他	2,081	-
特別利益合計	1,166,431	14,175
特別損失		
投資有価証券評価損	169,511	49,399
関係会社株式評価損	206,409	-
デリバティブ損失	4 339,545	-
貸倒引当金繰入額	635,178	827,558
その他	65,602	8,267
特別損失合計	1,416,246	885,226
税引前当期純損失( )	120,818	1,445,781
法人税、住民税及び事業税	108,313	112,675
法人税等調整額	-	6,451
法人税等合計	108,313	119,127
当期純損失( )	229,131	1,326,654

## 【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)		当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
仕入	1	5,695	94.4	-	-
労務費		-	-	-	-
経費		340	5.6	329	100.0
当期売上原価		6,036		329	

(注) 1. 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
外注費(千円)	340	-
通信費(千円)	-	329

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2020年10月1日 至 2021年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	2,651,163	1,831,163	800,000	2,631,163	818,406	818,406	322,213	4,141,705
当期変動額								
新株の発行	897,136	897,136		897,136				1,794,272
当期純損失（ ）					229,131	229,131		229,131
自己株式の取得							1,420	1,420
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	897,136	897,136	-	897,136	229,131	229,131	1,420	1,563,720
当期末残高	3,548,299	2,728,299	800,000	3,528,299	1,047,538	1,047,538	323,633	5,705,425

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	1,523	1,523	3,041	4,143,223
当期変動額				
新株の発行				1,794,272
当期純損失（ ）				229,131
自己株式の取得				1,420
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	20	20	2,930	2,909
当期変動額合計	20	20	2,930	1,566,629
当期末残高	1,544	1,544	5,972	5,709,853

当事業年度（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	3,548,299	2,728,299	800,000	3,528,299	1,047,538	1,047,538	323,633	5,705,425
当期変動額								
新株の発行	3,750	3,750		3,750				7,500
当期純損失（ ）					1,326,654	1,326,654		1,326,654
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	3,750	3,750	-	3,750	1,326,654	1,326,654	-	1,319,154
当期末残高	3,552,049	2,732,049	800,000	3,532,049	2,374,193	2,374,193	323,633	4,386,271

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	1,544	1,544	5,972	5,709,853
当期変動額				
新株の発行				7,500
当期純損失（ ）				1,326,654
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	59,977	59,977	145,923	205,900
当期変動額合計	59,977	59,977	145,923	1,113,253
当期末残高	58,433	58,433	151,895	4,596,599

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業組合への出資持分については、組合の直近の決算報告書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、建物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15～18年

工具、器具及び備品 4～15年

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 関係会社整理損失引当金

関係会社の整理に伴う損失に備えるため、将来の損失見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の展開する事業における、顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)、並びに、顧客との契約から生じる収益以外の収益の計上基準は、以下のとおりであります。

(1) 顧客との契約から生じる収益

その他事業では、主にグループ会社等に対して総務・人事・財務経理・情報システム管理に関する業務の一部を提供しており、当該サービスから生じる履行義務は、一定の期間にわたり履行義務を充足する取引であり、履行義務の進捗度に応じて収益を認識しております。

(2) 顧客との契約から生じる収益以外の収益

投資事業では、主にITベンチャー企業を主たる投資対象として、投資リターンによる企業価値の向上を図るための事業を行っており、保有する株式等について、譲渡時点で収益を計上しております。

## 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## 連結納税制度の適用

当社は、連結納税制度を適用しております。

## 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、翌事業年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行することとなります。ただし、「所得税法等の一部を改正する法律」(2020年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

なお、翌事業年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号2021年8月12日)を適用する予定であります。

## 重要な繰延資産の処理方法

## 株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

## 社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

## (重要な会計上の見積り)

## (1) 非上場株式等に係る評価

## 当事業年度の財務諸表に計上した金額

勘定科目	前事業年度	当事業年度
営業投資有価証券	324,901千円	787,701千円
投資有価証券	3,328,100千円	3,300,123千円

投資有価証券には、株式会社カムムに対する投資3,137,274千円が含まれております。

## 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表の注記事項に記載しているため、記載を省略しております。

## (2) 債権の回収可能性の評価(貸倒引当金)

## 当事業年度の財務諸表に計上した金額

勘定科目	前事業年度	当事業年度
短期貸付金	1,514,945千円	2,149,238千円
貸倒引当金(流動)	325,609千円	1,120,130千円
長期貸付金	1,909,197千円	1,389,212千円
貸倒引当金(固定)	581,867千円	594,238千円

## 識別項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

貸付金の評価及び貸倒引当金の計上は、貸付金の貸倒れに備えるため、債務者の経営状態に応じて債権の区分を行い、その債権区分に応じてそれぞれ回収可能見込額を見積り計上しております。回収不能見込額の見積りは、相手先ごとの滞留状況及び財政状態を基に行っております。

当該見積りは、相手先の財政状態の悪化等により影響を受ける可能性があり、見積額と実際の回収不能額との間に重要な乖離が生じる場合には貸倒引当金の追加計上または貸倒引当金を上回る貸倒損失が発生し、翌事業年度の財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」と同一の内容であるため、記載を省略しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」と同一の内容であるため、記載を省略しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、独立掲記していた「前払費用」は金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「流動資産」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「前払費用」30,657千円、「その他」53,924千円は、「流動資産」の「その他」84,581千円として組み替えております。

(損益計算書)

前事業年度において、独立掲記しておりました「特別損失」の「減損損失」は金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度においては「特別損失」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別損失」の「減損損失」57,277千円、「その他」8,324千円は、「特別損失」の「その他」65,602千円として組み替えております。



## (貸借対照表関係)

## 1 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
短期金銭債権	1,600,090千円	2,362,076千円
短期金銭債務	290,099 "	181,126 "
長期金銭債権	1,955,177 "	1,389,212 "
長期金銭債務	190,000 "	190,000 "

## 2 担保に供している資産及び担保に係る債務

## 担保に供している資産

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
関係会社株式	1,010,000千円	1,010,000千円

## 担保に係る債務

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
子会社の1年内返済予定の長期借入金	250,000千円	250,000千円
子会社の長期借入金	1,225,000 "	975,000 "

## 3 保証債務

以下の会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
株式会社FOPW	1,475,000千円	1,225,000千円
株式会社adGeek	205,000 "	- "
Ultra FreakOut株式会社 (旧 株式会社IRIS Networks)	100,000 "	100,000 "
株式会社カンム	- "	900,000 "

以下の関係会社の仕入先からの仕入債務等の一部に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
本田商事株式会社	50,000千円	50,000千円
Playwire LLC.	2,909 "	3,765 "

## 4 当座貸越契約及びコミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、主要取引金融機関と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの 総額	1,900,000千円	2,950,000千円
借入実行残高	1,100,000千円	2,280,000千円
差引額	800,000千円	670,000千円

## (損益計算書関係)

## 1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
営業取引による取引高	456,818千円	687,601千円
収入分	456,709 "	651,741 "
支出分	109 "	35,859 "
営業取引以外の取引	65,760 "	45,999 "
収入分	56,010 "	11,691 "
支出分	9,749 "	34,308 "

## 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
役員報酬	121,052千円	133,496千円
給料及び手当	295,422 "	336,996 "
賞与	7,615 "	6,666 "
法定福利費	43,753 "	46,851 "
不動産賃借料	56,797 "	55,025 "
賞与引当金繰入額	37,206 "	38,774 "
株式報酬費用	- "	145,923 "
支払報酬	89,422 "	121,627 "
おおよその割合		
販売費	-%	-%
一般管理費	100.0%	100.0%

## (表示方法の変更)

前事業年度において主要な費目として表示しておりませんでした「支払報酬」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度におきましても主要な費目として表示しております。

## 3 関係会社株式売却益

前事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

当社の連結子会社であった株式会社インティメート・マージャーと株式会社デジタルフトの株式の売却益それぞれ819,427千円と344,922千円を計上したものです。

当事業年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

当社の持分法適用会社であった株式会社ZEALSの株式の売却益14,175千円を計上したものです。

## 4 デリバティブ損失

株式会社インティメート・マージャー株式の譲渡に伴う、同株式を対象とした株価変動に係るデリバティブ契約(株価連動取引契約)に基づいて発生した損失額であります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(2021年9月30日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	139,393	3,326,006	3,186,613
計	139,393	3,326,006	3,186,613

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	前事業年度 (2021年9月30日)
子会社株式	1,452,105
関連会社株式	627,114
計	2,079,219

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「関連会社株式」には含めておりません。

当事業年度(2022年9月30日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	139,393	2,093,360	1,953,967
計	139,393	2,093,360	1,953,967

(注)上記に含まれない市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	当事業年度 (2022年9月30日)
子会社株式	1,489,845
関連会社株式	346,607
計	1,836,453

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
<b>繰延税金資産</b>		
資産除去債務	11,671千円	551千円
投資有価証券評価損	161,684 "	171,924 "
関係会社株式評価損	1,075,369 "	1,079,798 "
関係会社整理損失引当金	45,870 "	45,871 "
減損損失	33,551 "	2,526 "
貸倒引当金	288,270 "	538,470 "
貸倒損失	7,784 "	24,474 "
賞与引当金	6,648 "	6,451 "
株式報酬費用	- "	44,688 "
投資有価証券運用損益	- "	3,993 "
税務上の繰越欠損金(注)2	230,571 "	195,891 "
その他	15,731 "	61,200 "
繰延税金資産小計	1,877,153千円	2,175,843千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	230,571 "	195,891 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	1,646,582 "	1,979,951 "
評価性引当額小計(注)1	1,877,153千円	2,175,843千円
繰延税金資産合計	-千円	-千円
<b>繰延税金負債</b>		
資産除去債務に対応する除去費用	6,451千円	-千円
その他有価証券評価差額金	-千円	25,408千円
繰延税金負債合計	6,451千円	25,408千円
繰延税金資産又は繰延税金負債( )純額	6,451千円	25,408千円

(注)1. 評価性引当額が前事業年度より298,689千円増加しております。この増加の主な内容は貸倒引当金が250,200千円増加したことによるものであります。

## 2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度(2021年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	-	-	-	-	-	230,571	230,571
評価性引当額	-	-	-	-	-	230,571	230,571
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当事業年度(2022年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	-	-	-	-	-	195,891	195,891
評価性引当額	-	-	-	-	-	195,891	195,891
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度は、税引前当期純損失のため注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項(重要な会計方針)4.収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区 分	資産の種類	期首 帳簿残高	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	期末 帳簿価額	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	0	500	499 (499)	-	0	27,238
	工具、器具及び備品	0	294	294 (294)	-	0	20,081
	リース資産	0	-	-	-	0	1,696
	計	0	794	794 (794)	-	0	49,015
無形固定資産	ソフトウェア	0	2,300	2,299 (2,299)	-	0	-
	ソフトウェア仮勘定	0	3,900	3,899 (3,899)	-	0	-
	その他	0	1,254	1,254 (1,254)	-	0	-
	計	0	7,454	7,454 (7,454)	-	0	-

(注) 当期減少額の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	941,306	1,714,369	941,306	1,714,369
賞与引当金	21,708	38,774	39,415	21,067
関係会社整理損失引当金	15,404	-	-	15,404

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	事業年度終了後3ヶ月以内
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他のやむを得ない事由により電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 公告掲載URL <a href="https://www.fout.co.jp/">https://www.fout.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

第11期（自 2020年10月1日 至 2021年9月30日） 2021年12月24日関東財務局長に提出。

#### (2) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

2022年4月1日関東財務局長に提出。

第9期（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及び確認書。

第10期（自 2019年10月1日 至 2020年9月30日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及び確認書。

第11期（自 2020年10月1日 至 2021年9月30日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及び確認書。

#### (3) 内部統制報告書及びその添付書類

2021年12月24日関東財務局長に提出。

#### (4) 四半期報告書及び確認書

第12期第1四半期（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日） 2022年2月14日関東財務局長に提出。

第12期第2四半期（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日） 2022年5月13日関東財務局長に提出。

第12期第3四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日） 2022年8月12日関東財務局長に提出。

#### (5) 四半期報告書の訂正報告書及び確認書

2022年4月1日関東財務局長に提出。

第10期第2四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）の四半期報告書に係る訂正報告書及び確認書。

第11期第2四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）の四半期報告書に係る訂正報告書及び確認書。

#### (6) 臨時報告書

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書を2021年12月24日に関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号の規定に基づく臨時報告書を2022年5月13日に関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号の規定に基づく臨時報告書を2022年8月12日に関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号の規定に基づく臨時報告書を2022年11月14日に関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号の規定に基づく臨時報告書を2022年12月15日に関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号の規定に基づく臨時報告書を2022年12月22日に関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書を2022年12月23日に関東財務局長に提出。

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。



独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2022年12月23日

株式会社フリークアウト・ホールディングス

取締役会 御中

和泉監査法人  
東京都新宿区

代表社員 公認会計士 田中 量  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 石田真也  
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社フリークアウト・ホールディングスの2021年10月1日から2022年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社フリークアウト・ホールディングス及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

株式会社カムムに対する投資の評価損計上の要否に関する判断の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>【注記事項】「(重要な会計上の見積り)」に記載のとおり、会社の連結貸借対照表には、非上場会社である株式会社カムム(以下「カムム社」という。)に対する投資が3,137,274千円計上されており、資産合計の12%を占めている。</p> <p>非上場株式を含む、市場価格のない株式は、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときには、減損処理する必要がある。実質価額は通常、1株当たりの純資産額に所有株式数を乗じた金額として算定されるが、カムム社に対する投資については、同社の超過収益力を反映して1株当たり純資産額に比べて相当高い価額で株式を取得していることから、超過収益力を反映して実質価額を算定している。</p> <p>カムム社の超過収益力が毀損した場合には、同社に対する投資の実質価額が減額されることになる。超過収益力の毀損の有無に係る経営者の判断は、投資時と現在のカムム社のビジネスモデル、成長戦略及び事業環境の理解に基づく投資時の事業計画の達成状況の分析、KPIの推移の確認、第三者が行ったファイナンスの状況の確認等を総合的に勘案することにより行われており、この経営者の判断が連結財務諸表に重要な影響を及ぼす。</p> <p>以上から、当監査法人は、カムム社に対する投資の減損処理の要否に関する判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、カムム社に対する投資の減損処理の要否に関する判断の妥当性を検討するため、主に以下の手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価 投資の減損処理の要否に関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。評価に当たっては、事業計画と実績の比較分析等、超過収益力の毀損の有無を判断するための統制に特に焦点を当てた。</p> <p>(2) 超過収益力の毀損の有無に関する判断の妥当性 カムム社の超過収益力の毀損の有無の判断の妥当性を評価するため、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営者の理解と判断を評価するために、経営者に質問するとともに会社が作成した超過収益力の毀損の有無に係る検討資料を閲覧した。</li> <li>・ ビジネスモデル、成長戦略及び事業環境について、カムム社の最高財務責任者に質問し、回答内容が経営者の理解と整合していることを確認した。</li> <li>・ 投資時の事業計画の達成状況の分析、第三者が行ったファイナンスの状況を確認した。</li> <li>・ 会社が超過収益力の毀損の有無を判断する上で、カムム社が事業遂行上重要と考えているKPIについて、過去の推移及び事業計画との整合性を確認した。</li> </ul>

#### その他の事項

会社の2021年9月30日をもって終了した前連結会計年度の連結財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して2021年12月24日付けで無限定適正意見を表明している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社フリークアウト・ホールディングスの2022年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社フリークアウト・ホールディングスが2022年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年12月23日

株式会社フリークアウト・ホールディングス

取締役会 御中

和泉監査法人  
東京都新宿区

代 表 社 員            公認会計士            田 中   量  
業 務 執 行 社 員

代 表 社 員            公認会計士            石 田 真 也  
業 務 執 行 社 員

**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社フリークアウト・ホールディングスの2021年10月1日から2022年9月30日までの第12期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社フリークアウト・ホールディングスの2022年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**監査意見の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**監査上の主要な検討事項**

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

(株式会社カムムに対する投資の減損処理の要否に関する判断の妥当性)

個別財務諸表の監査報告書に記載すべき監査上の主要な検討事項「株式会社カムムに対する投資の減損処理の要否に関する判断の妥当性」は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「株式会社カムムに対する投資の減損処理の要否に関する判断の妥当性」と実質的に同一の内容である。このため、個別財務諸表の監査報告書では、これに関する記載を省略する。

**その他の事項**

会社の2021年9月30日をもって終了した前事業年度の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して2021年12月24日付けで無限定適正意見を表明している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。